俳諧一葉集

二

俳諧一葉集附合之部一

古学庵佛兮 編
幻窓湖中 校
坎窩久藏

延宴五丁巳春

此梅ゝ生ゝ初ゝ咲ゝ時ゝ　桃青

ゝ雪ゝ　堆人の作　住章

ゝ雪ゝの梅ゝ　ゝ雪ゝの中に　ゝ

砌味噌ゝ　ゝ雪ゝの中菊　青

摺鉢を芋洗ふ　ゝ　ゝ

むこの上ゝ　ゝ紀の男ゝ　章

眺のいとけなき花の月　章青
瓜たてゆくかの曳の山　章青
五月雨のとまるのさる高の花　章青
ひとすじの水かすかに住よりの松　章青
時雨しも仕舞を年のくれて見て　章青
友よぶとうのうひ寄るる
青蓮の寺の白塔の檜うち
森の江風　六　章青
古菊茶ふまれて這て踏ならす　章青
蛍時雨まぢりにもごりあひのぬ　章青
忘の秋うにたとくのうそとよ　章青
吉祥　天女さられなるの月　章青

ゆつくへは蹴ちるる山かつ　章青
松のゆくしはひくく耳たふ　章青
大足は袋をかくれ茶をかくれ
かすみをもくもくき天竺のきぬ
二　とゝの重負女一文の撥をとく　章青
風進退をと別る井　庵　章青
瞬の蹴をよ茶道ひきれ暑て　章青
うみをうのたゝ鼓うめ一の中　章青
地千ゆくハ石白なくちひて　章青
寺の　松山茅渡　月　章青
千賀の浦を行て情の陽　章青
重ねをひてくくるる　章

たゞ[illegible]ふるまの八百筋の方
青
あ我山あのくゝ入一[illegible]風百
章
よやらゝこあの袋の[illegible]寺
青
五里をうけ[illegible]ゝ[illegible]なれし
章
あの月夫あ[illegible]ちゝの丸の辻
青
ちんまゝ町しゝ引ゝ雪
章
三
姓恼の[illegible]弧中[illegible]寺
青
人[illegible]あ姓ハ山蛾も[illegible]
章
谷の戸を[illegible]ゝ起ゝ解流し
青
[illegible]多の小[illegible]ゝ[illegible]の寄
章
[illegible]をんゝすゝあ[illegible]の[illegible]
青
上野下[illegible]の[illegible]れ[illegible]
章

[illegible]因要[illegible]ハ[illegible]子杉果ゝ
青
[illegible]ゝ毛ゝ姓[illegible]ゝ[illegible]
章
[illegible]ハやゝ[illegible]何おもすゝ
青
[illegible]ゝゝ[illegible]
章
大学曲安[illegible]ゝ親子取ゝ
青
ゝ伐の掟ハのれ[illegible]
章
古毛木ゝ三百[illegible]
青
三
叶山[illegible]ゝ[illegible]
章
不二の嶽[illegible]ゝ[illegible]ゝ
人穴[illegible]ゝ和梅の[illegible]
青
蛸蛸やゝ角の[illegible]の[illegible]
章
山椒つゝやゝ[illegible]椒[illegible]ゝ
青

小松やらしぶの引くるふしハ　章青
葉不　ようこの女のよい者　章
うるしの張の二張ハ外きりれと　章
かしこそ物を屋字物　松　青
ようふつくこ出松の樽をつくるこ　章
能用法ほ　宗の　とに　青
思つけく色は黒ものはつくむ　章
ゑこちのこ　服装の用　青
飢饉こ　弱ようこ秋の雲　章
多くハ傍宅　義の上　風　青
三ノ
一紫つ　柳の数やこけの音　章
ら行こ家ものけこ　章青

和歌の身ハ　うもやのこ　章青
叶西陣　玉もの　陣織　章
地ようれこ　ようこ山端こ　青
松宝　風や　風ものの　章
果ようこみの二本の下紅葉　章
ゑこ　秋こ　青義ようこ　青
月すこ　宝屋のこ　能中張こ　章
河内の　ようこ　茶　石　青
四条　ようこ屋の里こ　ものをく　章
張こ　芦　垣　伝つ　こ　青
叶こ　入江の　屋敷中　陽　章
やこ　一流　松こ　義ものに　章

名

いてさゝハ麿法さまとよ矢ふ尺よ　青章
七りゝひゝく入おの　ゝ　青章
某湯三井の古寺汲ゆけゝ　青章
義さきゝ経しきものゝ　青章
階れゝ月ゝ八月ゝ　青章
湯之杜釜手至合ゆゝ　青章
既手神みゝ宮ゆゝをゆゝ　青章
白鷺　阪八沙手ゝ経て　青章
つゝゝと宮手たゝ陵山　青章
ゝけ入新阪八小神の河名　青章
ゝふ秋八狐のあゝすゝゝむ　青章
ゆゝゝ手ゝ杜ゝ手の寄　青章

百人とゝの月ゝゝれゝ　秋章
古文書寄奇のつゝ　青章
酒のゝゝたゝけ走で白雲飛　青章
ゝ杜たふゝやゝ人のゝゝゝや　青章
杜のゝゝ杜ゝ枝の大木大間屋　青章
ゆゝとゆゝゝゝく多ゝゝ来る　青章
秤ゝて日本の新ゝ白やうけゝん　青章
ゆゝ社のゝゝとつゝめゝれゝ　青章
新ゝゝゝと禁の里八十国ゝ　青章
ゝ坂ゝゆきハ神のさゝひ　青章

同年春

梅の風俗話あり　さうんあり　住章

うちとけつつ　桃青

きやうえんす　霧のきめの袖えて　い

けんやく　あぬ心のとけお　幸

きてこそ中はたるる方なくすす　い

うる　地の春　はけそけさひき　き

海たて　名の東子月すこ　い

起句　うこく　船の多　幸

いのち　遠霧　うちえる　秋の風　き

寒千　古用　しの月の　羽衣　幸

うつ　好　地の山　琴ひ　き

青　花　ふく　ひとよぎ　ふく　幸

松枝の本　写の　俗　高くあれ　き

業　擔　桶　きよ　村雨の　松　幸

夕　陽　生　ひ　陽　春の雲　き

光　の　す　さ　山の端　かた　幸

富　の　む　の　霧　紫　む　松　き

桐　畫　本　志　久　ち　秋　幸

猫　の　夕　の　ふ　すみや　ふ　き

行　五　六　外　こ　け　月　幸

古　男　ふ　の　あ　む　き

志賀山の　ふ　い　こ　ふく　風　い

さ　ち　み　や　二　義　う　秋　幸

ひ　う　て　俗　ふ　あ　東　き

ゆう彼て池のうきまる石ひとつ　宇
玉子のおやらちらくく沈　青
侍の女房のよそすんがすてけり　宇
上總者よまさハ枚打　青
付ともけるもひま君の庭かくても　宇
兜数ゑハのてのれうらしや　青
壺中より大名ゆれハ所人あり　宇
都ハみよりうけハ取諸　青
古帳て模様を引移哉　宇
火鉢をたてし給そのまく　青
うるみのゆみうつ睡とうてしは浪の月　宇
法喜子のいけとう秋をむかしむ　丶

うそ嘩きけハそあつさハ荻の声　青
地獄のゆふくきうしも旅うしの　宇
飛驚そハえらさ見えて　青
延年舞は菊角の長をし　宇
詩雛より就やすくもきのそれん　青
亀ハたちまち下女て師うハ飛　宇
光都の梅花擬くの佛使て　青
白むくそくる粟五十石　宇
何成る絵とかうひさたひまく　青
ぬうる笠宗も笠の秋風　宇
床ハ海新解人の堂の月　青
虎の毛とらもやうれゆく寄　丶

くろうみの藻池の肩もちそふへき　亭
早まきはつる秦の法くそ　青
三 能くまみ徐福が仙ものう万葉　亭
まりあらそふ乾坤一の分　青
瀬戸の土金輪際をほりぬきて　亭
弁才天も鯰さしくる　青
百月(?)の境にあらぬ海ごのもとなる　亭
その花の不二も見すの山　青
かんかん肩はいやすことなりて　亭
見よし風佛ものしらぬの法　青
競み佛前をやもる鉢の羽　亭
龍田の紅葉豆腐四五丁　青

むかし出る宗々くらひの二ぞ千　亭
人形の志風さらくなり　青
大火事を袖の下にふさぐ絵　亭
すっしらゆる土手の松山　丶
三 日本橋ちんたまもて端なりし　青
才ゝ兄をもつて作物の源命　亭
かいつのみをる包ちの拂ふ雲の尚　青
諸子はくつさ常とあわり　亭
従千本節のまのいふものの中に　青
何とて松それみて兄ゆるん　亭
こまま拂とも常まつされぬ時の雪　青
浮世の土を焼のへし　志らく　亭

物語伊勢白髭とよばれしう　寺
玉水の秋を癒（こきと）の舟ゆく　寺
かみそうも内侍ぶるまひ自　書
のゝ書ハうけ　とゝ和この雪　寺
衣笠を除て除勅の花待て　書
かゝの法師を高野の　書
名　光稽や里んとうけうこの　寺
天子つゝめく　虹のつゝ　書
その四宿夕門ハ新米を接ゝ　寺
日儲の札を兎魔ぶさむ　書
猶さ新歌安　金子ふゝ　寺
為也ハうみよりさうる米の豆　書

人とゝ思ゝんや祝の五巻　寺
新ゝより書ゝ　書
いまの松のつゝ　笑　寺
書松のをとを少繰千尺　書
新ゝ　廷洲今川寺る　寺
ゝてゝ書ゝ　書
南の月堤をうゝ　寺
保作ハいゝ　書
上ゝ新蕎麦面ゝ　寺
大松の情ゝ　書
除茂式本草を渡頭する　寺
南世いゝ第本庭の時　書

箆に蛸ハ雪降るをひかへて　章
とうり矢二筋まふとしの先　青
軍ハ花追手勝負をふみ合　章
手数何百きさしぬの先　青

同手負

何ゟ何ともまやきの手ハるゝて浮藤汁　桃青
宮さまより川て足の先まゝて　信章
居合めや何ゟ知の玉や新まん　信徳
袖志名字ハ風み薩摩京　青
本迴の使用も何ゟハ池の坐り　章
御志さこまーアりわりハ餅　徳

習ぬの陽ん何まで月すみて　青
更てをはし小夜の雰　章
ウ蛍耳やよそて咲やしき萩の声　徳
難波の芦ハ伊勢のはまいち　青
歌しきうる何事人ぜしもふーくも　章
かくを小哥や袖ゟ涙の　徳
物語よ鐘しつめ、余香さ　青
千軽回五数これしきの番色　章
寺の泥く枕むひ袖もる宗花そ　徳
みーうゝるる雄て眉つく　青
鞭打ねうつうれるをさへの　章
秀り積つゞ讃讃の功徳　徳

嵯つきの坊主も秋や少もりん　素堂
千一体千人をそやの月　沈
花の山石朱鞘を跡まタ写雪　素
いりやきつけ岸の山茶　素
二
千壁川をもるうる茶屋　素堂
秋俳句　秋重多ゆく　沈
風まく物枝百本割さらん　素
壁印　松の紋のうつる　素
双古の菩提寺仲達寺　沈
宮生の跡をすうひとうる　素
月の雲ゴ多国金谷の三瀬川　素
かゝ尾沈む川八ゆうう　沈

小蓑国ゴ大地のうゝみ鯖　素堂
孫の飯椀沈ゝ　中沈
一二秋沈ゝ　素
月八ゝ　沈
蓑笠ゝ　素
胸寄用の　沈
三
秋風ゝ米の秋　素
雲手ゝ　素
河ゝ　沈
古の地蔵の茅原ふけ　素
沈ゝ地蔵の人ゝ　沈
文ゝ　素

今はやる新狂言もなくなりぬ　青
物すさみ行すまの柳へしをや　季
河ら時ハ盛の二階を追はれけて　流
何をしと問ハ猫の目の露　青
月影や夏の琥珀を曇らん　季
隠れところもうつていなす　流
法の為に是非なき事ぞ　青
名跡の寺も一ツ潰れゆく　季
三
上下の越の去りし山を霰　流
百舌石に梅の枝ぶさかり　青
冬そし棹その帝に清晴す　季
守随極の葵に撰集　流

掛乞も小町がかたへといそぎけれ　青
あれかる朽木の樟に寝られ　季
小松ありしに風荒てハ更の月　流
子を入籠ハうしろもなし露深　青
海苔や全の清さく山の秋　季
きる染人のよその葉に色　流
琥珀帯外をさんいつしとまかり　青
あら続く雨夜のうちに合羽みる　季
飛のつ社寺かうしとや時守　流
森の紅風狐てハなんの可　青
三ノ
二柱孫なくつとえしてえ隠れ　季
三笠の山を引かへりて　流

業代の古哥に賀うと呼ふなり
賀は多くは羽衣
四方の海はうちもそこ風静
不老長生の酒の名舟
おハ浦入りをしほうしの浦
松の根まくらの石の孫とる
清き志しを知れ女の歌を
尾崎の松の花の月
乗えを嵐の山の秋
波立つみしるる雲きりの雪
衣裳の海うちのすゝの風
白ひをうく敷を合歌

書
享
波
書
享
波
書
享
波
書
享
波
書
享
波

名
弦の方一貫二百目を結て
代は八さ以ふめて八百文 山
和尚の行ふ引宗手書しし
幽霊と来て波の小ぬすみ
世孫方の橋の上ふ蔵きて
新合 世孫の百々まる 四
祖父祖母をやおとゝ新きて
鼓をいしくやを雑きとく
米俵はとし弦て肩ふ月
木賃の夕風 武士郎
宰鼓天を志ふ体ふ武郷
ものをやもとゝ川舟

書
享
波
書
享
波
書
享
波

さそひ出る鳥の声
すハ清人の世の秋の寿
物の號振舞ふ事する法乃
木陰ゑの風山の渭の寒
人形の秋の一ハよりけ乃
さらけ千かゝる芝乃浦き
ゆ箱菓子をするゝ七夜ゝ
住ゝ清白ゆ一の海
清浦深かゝひゝるの春ゝ
神代ゆ来ゆむ入の春

拙筆

延宴六戌年春

さゝれ波浦小舟ハ夜の花　佐章
うすみゝもに芝ゆ人　秋　佐徳
青ゆ面ゆふ山ゝ春ゝ　柳青
かゝゝけの流の冬ハの山ゝ　章
春ゝゝ岩ゝ浪の秋ゝ舟　流
乃よゝ春ゝゝ夜友ゝ　青
五百ゆさひき自ゝ千乃ゝ　章
松を神樹ゝ紅葉の秋　流
ウ
ゝうゆものゝ風の山ゝ紅ゝ　青
里ひのきゆ六ゝ人ゝ　章
本孫ゝ千ゆゝ美の章ゝ　流
門深ゝ春ゝ　青

強田成道退もちをたのかれて
二人の若れ 浪人小姓
仲てをちきれ うとうとの母を
ぬけやつけ 敵さうの母衣
心をあのさのはく寄をハ
浪やき入 大釜の間
蔵紙屋地獄の底くさうぬを
殺 解 のちをを解くる
海の月 海雲 歩の海 振袖
陳の内 幾 文 の 寄
二 頭を取 紐ふさうする花 花
神をそハ 安常 扶 書

猫の尾入 海の沙子 音を仕く 音
のり面 ゆ ゆ 鴨の 書
山のけ 蝶道 音 松の 書
三十三 事 教 たてる 音
面帳や 後成 仇の 海
字 海 海 小 新 書
いろは 顔 桂 山 書
を 猫 叶 自 秋 海
新 月 海の 音 相 書
時の 音 松 一 教 音
字 舞 音 音 海
まよいる 毎 海 海 書

二ウ

侍従殿と人しのうそとの見しは
意思と朱雀院ハ年 まし
正こうを思れらるものかうら
らに見まうらはとうとく
おハ沢東殿山の大原き
花のさうに所中をふ
まち桜の数ゆいしやい
春景子もの物語うひす
まちかしの世界
光章う弱よ命のみ桜
忘のたを重れ陪うけ
浮雲年使風の玉章

章 沢 書 章 沢 書 章 沢 書 章 沢 書

心中う山林竹木拾きること
三 永寿の庭原世美捉不の月
十才の和尚のうい家秋ける
保地ハうさ清やまの春
量のいと江原の庫の風深
うこのうものう候篭のあみ
巻の洞ものう人あ乃
首ものの過ハ性こと
うき中ハ一八年さうれて絵
家しの書手爾汗うて
老ものは大原の書おまく
絵う信正立床入の山

章 沢 書 章 沢 書 章 沢 書

若宮うまれ給ふ八幡太郎　亭
かつらすのうへの右近ちうん　流
雲の月橋の精ゆゑ桂さ　書
すま山　三　悪尼性の眼の光り陽の弾　亭
雅楽の矢さき因果まふくち　流
きゆみとさ玄子の堅ゆみ　書
きさうのひとさ十愛目さこ　亭
大八やさのい寺の悪みうん　流
日産をめしてみうきの船　書
山森の柿　猩々屋ちうけ　亭
青雲の月白明ましゆく　流
書

宵雲の本宮のうみやちうん　亭
ようゆ松ろしる谷深や月　流
山ちく海舟陽ちう巻し　書
海雲のうち　雅石ら　亭
白雲の花の雲の作法ある　流
名　梵　頃ゆ　弱いとよ　書
延坂ち井宮ちうみ引巻さ　亭
山まさ山や　三玉の九郎今　流
雲手形　筆雲ちやくまちう　書
松風　義ちく　根　をとく　亭
古物の庵の芦蓮　立六及　流
楚　玉のかさちく　校河の秋　書

郁郁の野の梅花自ゆゑ
よくしぬ人の舎利を拾る　宰
白ゆゑ十方侵す鼻の先　素
糸おろしの武蔵　蕉
音楽の小弓三味線あいの山　洒
四竹さハく仲の秋　素
姉係る御伽社丘尼のいろも　宰
係るとやとの佛まつ事　洒
洒つゝき実金の膚こゝやうす　素
小鰯みのゝの草　袋　宰
旅枕洒くさゝやきゝ蛍ん　洒
鰯く仮の ちきり袋　素

さゝの洒きゝ仕くし汁のゝ情　宰
毒理の美舟のゝを拾ゝ　洒
宮や花白糸ゝ焼茶子　素
白ちく帰ゝる朝幕の百　桃華

同年春　信徳

物のゝゝ惜や古郷のいのゝ　桃青
作くゝ出ゝ百姓里す素　信章
峰ゝ雲ゝ多ゝ雑多稲ゝ　洒
ゝ人力の赤風ゝゝる　素
熊つのひもの人のゝゝ　宰
ゝ衣を学ゝふ稲ゝの家　素

墨の拍子の音のうつろひて　湖春
尾花う初手鏡かすかなる　寸雲
ウ
ゆさんいのるる風の末手吹　李
丈ハ山伏ほとゝぎす　湖
一念の鐘しも鳴て七まとい　春
かしこちハ兎の穴狩いとく　李
鉄ふのう伊勢ふのうとうの　湖
秋のいのきとゝとうえ　雪
縄をとゝ枝のあるやかつらん　李
流石をのれすちんを引ぬ　湖
骨うつき忍ひ笠うとし点のくし　春
之ゆうふう提てのあ　李

夕月雲山月風ふる流ふ水の月　湖
本陣さしさの紅葉うとく　春
花千鳥河きちんを行くめて　李
絵手つのうとし　雪され湖
二
手摩乃信金手で陽ふ　湖
勤当ゆふ二月中旬　春
和迦脇手法式傳ふちん　李
八万法華　湖
鶴強や十方世界のうれ春　春
れいのらハ赤土の春　李
いかとしの加賀変れ志の秋　湖
うなくぬ中に杖ゆく月　春

弱とめくら諸ともしく霧の暮　流
京城か小まの外しの一むら　青
其里ハ石ずりの文ハよしはなり　宇
獅子の湯本残亀のさらすゞき　流
去用志れ山を甜氏の青侍らし　青
谷をたゝえて慕孤の下し　宇
二　笑風君金柑衛に救揆る　流
吹矢をしおて黒漆并肉　青
秋の名残の鬼ねむりぬ　宇
まけ虫猫もし曹たゝめる　流
恙なき道て売しまつのれて　青
千葉平に倩人やあらぬ　宇

本銭をは稼ぎ餅へ兵し財　流
ひんおり部は社尺ふきなる　青
出やうさし安宮鮮のまゝる口を　宇
松江の海れ古店は嘩　流
めり桶に饐のさゝをつみかけて　ヽ
平月白うらむくの黒鯛　宇
花ならん露の聲れ詩のまの　流
父大院の書つかはす　青
三　まさをもや十二ひとくの手紙　宇
今男奈の妻をとし乳も衛のままれ　流
笈の中より売山の月　青
に儀の松鶴むすし時の秋　宇

関ヲ
の掛ふ
ふ寄
火付の
筆と
本三位
貢の
筆や
かさく
写て
愛くら
筆
子孫の
泥鉋
珍
の子
孫の
三
買う
いりの
大
幸

法
書
幸
法
書
幸
法
書
幸
法
書
幸
法
書
幸

多
世
小
滅
金
子
岩
陸
秋
よ
筆
月
多
世
小
滅
金
子
岩
陸
秋
よ
筆
月

法
書
幸
法
書
幸
法
書
幸
法
書
幸
法
書
幸

名

[illegible]

枝をハらけるを見のひとつく　法
良志はし下女としの義ひ　亭
亦ゆしれの旗をゆひの　法
酒桶を引葉の一白もえれく　青
情　以ハ人を　完　そら　亭
葉をそ　ゆ　ゆ　法
葉を手　時　経　青
果こし瓜の先　ゆ　ハ　亭
青のふ　ま　れ　く　点　法
意弱し内　新　主　涉　と　紫　青
気毎さく　ゆ　し　ハ　ま　の　の　摘　亭

疱瘡の祈思ふ　法
まりてやゆ　而を　弘　愛　の　青
翁を布の　衣　器を　ひ　と　の　亭
松をいく代の　青　弘　法　ま　つ　法
水涉の布を　眞　子　ま　め　れ　ハ　青
れうは　を　涉　し　く　一　子　ま　亭
火雷たらを　諸　を　ひ　く　く　ら　法
黄　亟　おく　本　所　の　未　青
江戸の水　近　寿　以　本　の　世　と　ゆ　亭
涉　白　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　亭

同年秋　　狂筆

於四友亭無行

似春

次広瀬秋志賀高良伏見で逝ハ
りの〳〵の海さしてくる月　四友
沖の石玉藻ゝ社の杉されて　桃青
見きゝられてやあの雪むし　〃
山おろし小笠のうけさらとふ　〃
ちゝ雨こうろもるもるもめくひ　〃
弾海貧庵ちゃうつゝ桜さく　〃
禁中に蓋おつてらゆゆく　〃
めうの人と三笠のまや雪ふん　〃
火付の時ちゝくらきうう　〃
学難の風公儀よく烈しくて　〃

阿高老こうそ白髪の　〃
多度山新手むさふや　〃
洲崎の松れひゝ牡丹　〃
ちゝ吉祥の新れを思ふ　〃
波の音手　撫こうゝむ　〃
又や青海波門出れもひ　〃
青砥四百八十　月　米　〃
芳野山こゝれ武士の世ちう　〃
浪こす岩をきつてのこつの　〃
花の蕊春の松風秋めけく　〃
青　柳ゝゝ女房ゆれつる　〃
血の色雪ゝゝみ幾ちのまゝの　〃

胸のうちさうさうとして
初めをかの宮ばらの秋ハ
時雨の松に升こえをよふ
おもひ出てまひしかの
霜もの月ハいとゝきよく
桂元やうんどし作るく秋の風
芦の九月ゝつきのうら
海ふかうかれてゝ浪の音と
さまの後手後ゝのゝ
甲斐ゝ根や次郎の禁ゝ入ハ
日上人ハ彰てゝ行ゝ
尾崎の火もゝぬ霜ゝ少数文ゝ

書
書
書
書
書
書
書
書
書
書
書

祇代の嵐まゝ
時めれハ義京とゝ新作
見て 夢のゆゝ 靈
お使ひけるもの秋の事ゝ
二宮ばとおく文筆の奇
命の月やゝゝや雑をゝまん
既ゝより第ハ合戦後ゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝりちゝ付ゝ男ゝ
冷食を思一ゝゝ
見生滅法生ゝ義 物 法
妙恒の言をゝして棚さう

書
書
書
書
書
書
書
書
書
書
書

寒さ手ゆるまるふるさとハ秋雨て
ロ情の花はまくやめく方沖　寒
ふるまてをの郭をのぶる山吹　〃
三ひとゆ手ゆ宗山のうてや帰雁　寒
あしたくしに通路の雨　寒
お情をのの川の本をを　寒
相手のつれの法人　寒
去数の雲ゆ雲ゆ相ん　寒
某ちうひ手ハ寒ゆ　寒
幾月の少松ゆ後ゆん　寒
とをを岩相ゆ下共ハ　寒
秋清ゆ池ゆのれをたゆのを　寒

ひうつよ情をを　寒
ゆ名弾の旅手を　寒
ゆ引うの星のうひ法　寒
なを天の戸法の雲の月　寒
三命をを相をゆ　秋　寒
弥のを田ゆ法田川　寒
山を弾ゆをすゆ樹木の　寒
法ゆのをふをを法里　寒
ゆ影を塗を仙境を入　寒
ゆを桃竹ゆ弾ゆん　寒
雲のをゆゆを杖を履を　寒
志をを式法の乱お川ゆを　寒

衣を肩手にうけて仕合
風手に白雪帯をゆきとう
秋風起てもみぢのよりて棒
寺遠を内のさくハ名手
尾を引すうて森のこゑ
御神鏡別の花ハ春ものふ
つゝしゝてゝ手まで花り
各
接けるる二ツのもるかいうて
うちかさ度ものかゝくと
重陽手伊与の国松さ渡し
ふみ石ものゝ中ハ十六
山仏ゝ硯手むりひ寄とうさ

書
書
書
書
書
書
書
書
書
書
書

ていてやはる手
物おを春の西よりつて
寺間の江ハ一見や陸ゝん
方舞おてもも陳ゆきて
秋の高見火入をけくゆもの
惜寺の紅手身をかるる
思ひ仮れ春のあ尺をつゆ俗し
空峰眼手くくくくくれ
薄情ゝきゝまものい
黒手手ゝくらるはし
遠刹の詩を賞めけと歩ゝ

書
書
書
書
書
書
書
書
書
書
書

撫膫張物や味噌つくるむ　雲青

手毒の育系改て新きく

折ふし松子　春の花ばく　い

より金の花　郭公ちきのうたて　雲

山をうすみの高て和を　桃雪

同季秋

尺蠖をハ落れハ尺蠖ハ花ケの秋　桃青

桂の帆ケらの十分の月　四友

さのつくうをうをみをくする百ケく　似春

山ハ孫子　春よりもいらう　い

恵印　えを家と　ゆうと人や家　青

うけうをハうしの傷大　將　い　雲

傷をを鄉鍬魚鯨　鄉のくし　い

雷ハをうけ子　峰　きうし　い

陰ウ陰をうを物をうをうをうをハ　雲

物　絵さをハ　松ゆう蔦ゆ　い

雷孫子ふ拂ふをもを代の秋　雲

みのうれもうお屋宮の月　い

木綿荊山ハうう出稀　雲

潜う　殺ハ木ゆの麻衣　い

物を墨を行をうをみを烏　雲

雲尺ハをを吹　森の雲のし　い

物孫を重ほの桂の大ゆ　雲

長老のこゝろ思ひて行りけり　青
供養するおのれの陰やひらく〳〵ぬ　素
霜月の古りを筆まつりすゝ　、
花の色を嵐山まてよりし侍く　青
宗鑑のこゝろよみてもふかし　素
二
白妙の旗手まとひて踊る聖　青
みどりを料理なめふく法　素
寺のゆく定家雨行僧らん　青
負ひ水積のまかせ月　素
八百年済煙の光霧文く　青
狸の川ちやうめ本寺の秋　素
狼や香ひ衣干女郎花　青

蛙(カハズ)等く信正ゝ　谷　素
一喰筆岩手踊りし古刀の紅　青
雫もれく波の瀬の情　素
ゑんやすぎ切果て飛ねする　青
湧の似をえらふ山折の一村　素
路を枕き作りし經筆まの　青
みの綾の絹の火すり錆出しく　素
二
ゑさらく本長精神しやうれ　青
いさまさ人をうつ物もなし　素
路の數素盞嗚をも後釈て　青
四計(ヤ)哉騰(カツ)ゝ又ちり　ちの川　素
おもくゝかゝるハ釋迦の花まつりと　青

新仁和寺法はかまくらの
菊小紋の羽織はまことに海のもと
はるばるとれ縫の白帷子入
節織を本情の事やさしく哀
智義八ゆれども毛先をわきまへ
紬の骨いくさはるし里の月
又あけぬまし九山の色
はまぐり殻の赤ちりてく
うすみの雪ちらさ
三 三まやの茶掛仕きまつ内子
紋引御半きて如しく
はかけるまであはくさまの小袖系

書
書
書
書
書
書
書
書
書
書
書
書

はるく 兵 餘 大 松

書
書
書
書
書
書
書
書
書
書
書
書
書
書
書

書
書
書
書
書
書
書
書
書
書
書
書
書
書
書

石うすめ　高　山本の　高
大地震つゝ　高　ふるく　高　ゝ　高
長十丈　高　餘　高　う　高
加賀　高　の　高　橋　高　板　高　く　高　て　高
魚　高　作　高　ゝ　高　ゝ　高　糸　高　色　高　丁　高
ゝ　高　れ　高　橋　高　や　高　少　高　ゝ　高　れ　高　ハ　高　ま　高　盥　高　れ　高
彩　高　橋　高　こ　高　れ　高　て　高　ゝ　高　ゝ　高　ゝ　高　ん　高
古　高　ゝ　高　伊　高　の　高　山　高　れ　高　て　高　ゝ　高　ん　高
河　高　内　高　ハ　高　ま　高　ゝ　高　れ　高　秋　高　風　高
さ　高　れ　高　て　高　た　高　飯　高　肥　高　ら　高　ま　高　神　高　の　高　寄　高
色　高　そ　高　湯　高　ら　高　の　高　す　高　月　高
待　高　の　高　ま　高　す　高　姿　高　色　高　ま　高　た　高　ら　高

名　高　ま　高　ま　高　ら　高　て　高　石　高　ハ　高
新　高　を　高　れ　高　昭　高　桑　高　の　高　す　高　ま　高　す　高　ま　高
代　高　ハ　高　ま　高　涉　高　ま　高　め　高　て　高　し　高
何　高　ら　高　す　高　の　高　ら　高　ま　高　の　高　ら　高　ま　高　大　高　地　高
た　高　り　高　け　高　狂　高　ま　高　り　高　ま　高　り　高　ま　高　平　高　に　高
口　高　香　高　ま　高　そ　高　後　高　桁　高　そ　高　伝　高　ら　高
う　高　ま　高　の　高　ま　高　れ　高　ま　高　ま　高　ま　高　ま　高　赤　高　ま　高　ん　高　と　高
を　高　ま　高　す　高　ま　高　く　高　や　高　ま　高　く　高　の　高　ま　高　ん　高
茶　高　る　高　刈　高　る　高　て　高　拾　高　て　高　の　高　む　高
ら　高　て　高　物　高　の　高　茶　高　数　高　ま　高　ま　高　ら　高
織　高　新　高　機　高　ま　高　る　高　峯　高　れ　高　田　高　沼　高
秤　高　一　高　ら　高　ま　高　れ　高　ま　高　す　高

けんどむ落まや山の淵はあ　青
小雪の雲すい淵も月　青
廣平　沈む　鄙家　の　家　青
響　風も山　雀　鶯　かくれう　青
かくうく　はて　天下おのうさ　い
宿ハ　月　ゆ　人　所　淵風　も　青
海士の　雲　し　ハ　秋　の　ゆくに　い
ゆ　ゆく　嶺　芦　失　ゆ　ゆて　秋　青
八　至　鹿　み　と　も　む　青　い
面　秋　ゆ　ゆ　ゆ　し　大　粕　ゆ　ゆ　青
あ　く　降　ゆ　ゆ　ゆ　む　秋　の　月　青

同年秋

の　ゆ　れ　く　秋　の　大　雪　江　戸　の　秋　春泥
紅　の　ゆ　く　も　よ　金　ゆ　月　似春
菊　や　と　の　あ　ゆ　く　ゆ　ゆ　て　桃青
淵　舟　ゆ　紅　ハ　河　浪　く　す　泥
雁　の　ゆ　し　い　く　し　れ　松　の　風　青
ち　仮　ゆ　ゆ　ゆ　く　仙　境　く　入　青
く　ゆ　く　雲　も　雪　の　上　ゆ　て　笑　泥
い　つ　も　秋　ゆ　し　泥　青
淵　所　く　く　ゆ　て　お　海　ハ　し　青
ゆ　く　の　行　き　海　ゆ　ゆ　く　ゆ　泥
む　ゆ　く　ゆ　き　づ　の　雪　ゆ　く　い　ゆ　く　青

鍔迫にしはしは比肩のこしる殿　青
不作しらしぬ修行堂鳥々の蹄の声　洋
枝の二口まくらて寺もて桂比　素
小ざくら色見えぬ和のしと思ひ　青
鬼らしくすゞと生猫にして　洋
天も花に妻の綾糠かはず新　素
二
飯のこてはれまにかりゆく　青
妻の霞む猫ハ都て酔ふ寺し　洋
庵つ口の二ツに算ハまくまくれ　素
嵐の井に名も〻〻も尊比されハ花　青
金輪際より高山の雪　洋
毘沙門比辞の志を〻も祈の秋　素

かをれ首の花うつる月　青
叢香もハツにやさけあふれ　洋
吉声文に素のれし尖　素
菓物お近し歌を遊びても　青
古川のくにしぶみを尺やしや　洋
気高にパウ比二けんの松なし　素
日待にすきる山住しきれ　青
二う
やすみ放も田め国覚すらちやすき　洋
和らの川にうたち匂ふ焼みちて　素
肉無手まれ岸やかとまれん　青
松ハすゞりる入花ち風　洋
花ハ乱れ袖ハ錦の長縮きく　青

肌さむしハきむくらひ手の月　素

同　似春

まくら葉露ヶ旅ねさそふ　春澄

野ざらし見てハ仙を去山　桃青

都杖テかざす月の新酒　素

唐衣ハ肩を衣つゝみ　澄

急きうき木ゝのめぐる秋の風　青

天下一竹田縞ゑかく寺前　素

流るゝ袖も涙の雨けふ尺しやや　澄

やよ郭公天帝のさとし　青

笑へる秋不変不抱きよきあふ　素

秋くるゝくハ古ちみ世　素

むかし柳千本の緑こゝのへとし　澄

身ハ風そのはハ託宣の　青

出女は玉の緒ハうれとも　素

知代もきぬす百文の恋　澄

霊宮の枕草子をふしおもみ　青

来かゝの帳はて首　素

言えぬ中は傳受一人の月にて　澄

或ハ庭の無常の秋　青

二咄以前の名をもてはやされ頃の春　素

とゝのふ月千本の萩　澄

るゝ袖の疼を髪と生ひ　青

小河ゝ宋社女方とも　素波
為所話ふ毛の毛ん毛ゝ毛ゝ　素
告子ゝ毛の毛ゝ毛ゝ　素
あ〻給ゝ毛ゝ毛ゝ　素
枝の花子　波子さひき　素
針立社宮賞侍あ〻天ま毛れて　素
秋毛て毛ゝ船ハ河山社月　素
河ゝ柳枝きす毛ふハ峰の背名楽　素
四五文波子と家ゝ毛ゝ毛ん　素
二ゝ　文毛のけ毛ハちゝくにのゝふやさ　素
波ゝゝ波ふ仲津ゝゝ波　素
竹戸柳の波の宮門やゆめゝん　素

渦きゝ（ゝとまれゝ）塚の巣　素
山ひゝけこぶの根おろ（もの毛　素
耳せゝかゝけ岸の毛　柳　波

同

波子て毛ゝ毛ゝ毛ゝ毛ん　柳毛
出毛の毛る波のあち　野　春波
川波の柳木や新のつゝふむ　似春
子毛子毛ゝる夢みとゝし　素
又とゝいつゝゝ毛ゝ毛ゝ毛ゝ毛ん　波
言ゝ吹ゝ毛ゝ山社秋　風　素
ウ　ゝ毛ゝ毛ゝ毛ゝ毛ゝ毛ゝ毛ゝ　素

納なんし　をとこ　をとこ
播磨灘や　松風　波けさ　悔もん　波
嵐　波は　ゆくる　渝の　浪　波
松小舟　米　波の　沼さひ　波
蓑も　簑も　多　生　う　波
ゑれハ　ゑ　女ハ　貧　抱　波
大海　ゑ　いはく　て　春　波
一夜の月　八分の　月　ふ　て　波
ばゑ　ち　千　ゑ　小男　雇　角　波
数　芝　ゑ　ゑ　ゑ　納の　帝の　波
生　ゆ　ち　き　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ
二　麦　飯の　井や　ゑ　子　麦　ゑ　ゑ

波　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ
幽　ゑ　ハ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ
さ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ
殺　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ
智　天　ゑ　く　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ
帳　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ
ゑ　ゑ　ゑ　手　ハ　石　川　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ
ま　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ
既　千　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ
月　の　月　桜　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ
ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ
二　去　男　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ

鄭の麻手志多ろうし　沈玄
産むす幾みとすれ男ん　青
ききすものあるか天のうくい　玄
伏せ姫のよめうみ　沈
古業手える　仲人の与

同　桃青

宮や月百ようよ金の通り　二紫子
文手数ぬ秀板の蓑　紀子
新苔麦心三高かられ四郎等　卜尺
芦の紫らゆうしれ味百の浪　二紫子
基恋や柄ち小舟ふえ

ウ
ハ男手そ与市その財　桃青
柔ものを光悦流ようれう　卜尺
某草喩示くせ汲を裳て　紀子
玄諭の伝地の　桃青
あをたちの手緑青の山　二紫子
隈ちの蜂ちの月の蓑うう　紀子
秋を中布北庭の山風　卜尺
桜多の鄭鳴まられ　二紫子
精をつけ北三位入巻　桃青
かとあるいたるもの　卜尺
又屋をを陸ふう　紀子
雪北から金あるをふん　桃青

[illegible]田の松くれ博奕こゝ[illegible]さ　二葉子
毛[illegible]を浄門の因子を錦のと　紀子
てゝ[illegible]や覆堂[illegible]深草すゝ　卜尺
[illegible]れ[illegible]の[illegible]ひ[illegible]ちよ　二葉子
[illegible]子　羽[illegible]郭[illegible]　とぶ　桃青
押入や淀の[illegible]　[illegible]社家階子　卜尺
織[illegible]の[illegible]物[illegible]　[illegible]玄室の森　紀子
[illegible]支　[illegible]の松[illegible]　桃青
[illegible]様[illegible]　[illegible]　二葉子
[illegible]郭[illegible]　[illegible]の[illegible]　紀子
[illegible]組板の　[illegible]　卜尺
[illegible]の秋三[illegible]　[illegible]人の[illegible]物　二葉子

[illegible]釋[illegible]　桃青
[illegible]　卜尺
大[illegible]　紀子
[illegible]　桃青
[illegible]　二葉子
[illegible]の[illegible]　紀子
[illegible]の[illegible]　卜尺

同七七[illegible]

[illegible]　桃青
[illegible]　千春
[illegible]　信徳

後ろ姿衣おもくこのけつて
嵐とうら絞る力の入るや　春
鉄炮けしきは小鳥修羅も　法
ひゑ住しやこゝに女の枕の初尾も　春
百みるうきをうたくたるれの秋　春
仇し妻をかうるの稲かの設もしハ　法
砂ゝひハてのけちゝ十六　義深　春
又男ら姿かゝらかゝかゝれと　春
古の羽打ゝ　光そしゝゝ　法
つくゝと泥棒のやを寝さを至　春
砂のとゝやぬさんきゝの家　春
須加月まれゝゝゝ方の月　法

春料理人沙弥を立て筆の浪　春
本を座の扇　法
二位吉の沙弥ゝ尺ゝめ小刀紙　春
筆の姫松　法　絶ものをとく　春
きてだに袖を絶ゝ袖を絶ゝつ　法
枕ゝくゝ　紙ぬけの夏　春
海をつゝ夫の深さ中絶て　春
紅の品ゝ　絶をゝしゝ　法
滑川ひゝ　丈子父を家　春
鶴ゝ家ゝ　雨筆の風　春
いとゝきゝゝ利久と川一法沙弥　法

初秋京の三郎しる秀の月　素堂
出の春つゝて一直の雨蛍　法
いさこ長しさく石物の雨　素
ゝとんよれさて成はをいそひ雨　法
国生の素菜多ゝ寸四竹　素
別てやさし乞食の妹背もる　法
ゝゝひよ修てこゝのきめし　素
思ひ川姫蛍さ七夕の新雲　素
青葉や稲荷の洗つをの素　法

同手春
芳想

きけゝゝ二内は白和歌を　桃青
天下の恋のけ糸出て素　松風
雨雲寄ゝゝ恋さまて　貞徳
ゝゝ恋を蘭子雨ゝ　貞徳
中百ゝ素ゝ鳥れほのゝと　越代
谷の戸口子うゝ秀　松風
上ゝ吉ゝ中の吹所ゝ　石巳
手里の雨を金笠の秋　執筆

同

ゝつゝや星雲子寄ゝ芳和歌　桃青
山を志ゝゝ樋の心　松風

まえ桶ふせる庭梅の月ちりて
こぬのにくきし風の夕くれ
待すえ餅子ふゑのむら雲の空
稚子をたれて峰の松まつ
御まのけ岩根の床みさき紀風
あけ御をまつのすゑのしら浪
ウ
茶仲さしそむ袖より待る風さて
何と杵手土の陰の
五十点あらゆるも惜しき
ひとむらのあさを絶職に覚
随筆に悩んでふる瀧の糸
青狗咲くしよ松よ姚素

風　青　ゝ　風　ゝ　青　風　青　風　青

小夜時雨思ひきのひらほとよ
さらの何のうしきめしの末
風自ら小便前に浪こして
原吹荒る紅み夕つゆ
夜気み秋や彼に鹿なん
ろくしやし書む山のちみ月
乌の年色前に帯る節の浪
二
露もいそし仁々なるかき所
なき板の磯に寄北志み深
嵐の紅それ寸すりら
米俵子するすすそてもし
四十の子に出て扶れ　中さ

風　青　風　青　風　青　ゝ　青　風　青　風

遠く猶そまさりたる海の
夢結のつまとよれるの
歌父俊さし仕給ハいかてか
さ結ハ長くとけ初そめし出
和歌や赤地錦袋
なる長さ
此角なる筆捨の白きものを
海ハこゝ結ひ
番船ハ白帆
四里の浦しほ寒の岩角
只俊をハ和ハ
松のふとこゝ子下帯も解

表紙
表紙
表紙
表紙
表紙
表紙
表紙
表紙

まこと柳の枝ハ波のよ安貝
厳ハ地底の
破小舟削ハ
本鍬手こゝ
手毛ハ
かゝ
味噌すこ
三ヶ世川の
つゝ
別ハ和尚の
長くこゝ五ヶ
老の里鶴

表紙
表紙
表紙
表紙
表紙
表紙
表紙
表紙

三
蔦ゆや絲さつ觸て流るゝむし　東
羽箒と經ハ風さへる　風
童ちゝおむ手しうさて竹の皮　東
夕日こほ経て柚匂ふ濱かゝる　風
小法利の雨かもけりと正印搾まふ　東
いろこへぬ松と薄ともし火　風
でゝ飛るてゆるの足半牛の背　東
轄材の楠牀かしゆとしさハ　風
上方のかゝ紀衣れぬ使てて　東
きる山もとゆひけかまきし櫃　風
孫ゆや二度こへるうみの丸　東
若もこ川ちやす東やさ免へまん　風

宍稿のよきの小袖を引ふり　東
三一汗ふくのす若川の月　風
手拭の雲手浪やよきまふん　東
らゐ羅障きさつきの端　風
とろけ生死の海をたへつゝ　東
雨ちこ小判みハ世両月ゝ　風
開闢の天地既に大神跡　東
宕戸年かくしたる行燈　風
つくのるん鬼の首のけの編挑　東
折まひの惚うそしハ筆達　風
菜刀の先ずゝしみハ甘煮はまけり　東
仮まやお植のつゆ　風

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

次韻　大和元年丙

表題

胥伯倫傳酒德頌樂天絶句

酒功贊青追續信德七百

五十韻

二百五十句

[illegible]

又[illegible]

[illegible]　桃青

直句以テ莊子ニ可レ見ッ矣　其角

[illegible]　才麿

[illegible]　楊水

[illegible]　角

[illegible]　青

[illegible]　水

[illegible]　麿

[illegible]　青

[illegible]　角

[illegible]　麿

[illegible]　水

[illegible]　角

[illegible]

三ノ

武士は又まことを[illegible]
女ハふくそをかなる
さゝ[illegible]
[illegible]は猫の目を[illegible]
[illegible]を[illegible]
乳[illegible]の穀の[illegible]
[illegible]秋を[illegible]
白魚を[illegible]
[illegible]は[illegible]の[illegible]
[illegible]士提灯を[illegible]
[illegible]女[illegible]

高水
[illegible]
高水
[illegible]
高水
[illegible]
高水
[illegible]

血[illegible]は[illegible]
[illegible]
因[illegible]
名天[illegible]
[illegible]
[illegible]の[illegible]
秋[illegible]
白き[illegible]
[illegible]の火[illegible]
師魚ハ[illegible]
安[illegible]の[illegible]
[illegible]

角[illegible]
水角
高水
小角
[illegible]
角[illegible]
水角

柏崎に初参社魂鳥の明　素
盆人社狩に仰ぎかり見れば　水
角をくくみ　風の音　唐
夕雲を見て　特をはしめ　素
民屋はのきに殿をせたる　角
笑ひの木蔭に見れば昧く　唐
まさに家わくに安波の古色　水
有見をひ字解らる向嶋しくて　角
あくれとくに和とる和まのう　素
紙軍しに初よりまのをぬ　水
初れおくくくに和とるく　唐
見に思ハラ神ハコ宮社寺特ある　素

鄰に菜作る託の多　角

同　其角

雨に沈とふ文字をくふ
素湯にとく鍋屋をしくる
とし山秋多を南蛮さ　才麿
月を来にくくる烏帽子を加ふ　楊水
無に陶をわるけ——や　桃青
松ほこまにいをひ芋社を志こぶ　唐
いやし山路に秋とくる　角
ゆくに軍を吟にから八来て　素
秋盗松風のうをを国に　水

和の国にすけて敬を計をこと
角
書基を宗 社庭枝れ戸
廣
とひとつ仁上寺を寺を寺をて
水
ぬきんを寺 寺を起しく
書
窮を俄さ寺の惜を招原浪むる
廣
ひとしハいつく帳の就宝
角
女の彩ひとと宝しを法遠く
書
若宗寺をしくやつを湖を
水
ストレト若入寺しをハいをも
角
取ひとを特夢つをまつる自
廣
秋の書ひうを呼波ととを待を
水
若の院れ陸陸をとふ
書

兎角人ハ為て法をめ
廣
ふ国の寿を寶を法けて
角
二軍(ヘウホウ)泡翠を寺を寺を越ふ
書
釣吹しをむを廉しの山
水
雪の寺女寺ニ蛭の寺ひの
角
よし京界をめをみいを寺ふ
廣
椿軍(ヘウ)彰ひ
水
ひを向れをけをきをすつて
書
寺の寺を泡の寺を椿を法ひく
廣
廣訶歩ひ彰林園を生る
角
れを拭ふを粉泡廣商泡湖ふ法呼
書
ひをしを寺を泡を寺て吹
水

和の倉とおしく霜降るころは八角
近例かさらく耳に後之麿
自の秋うるみそうへは且夕さ水素
霜すすきのむ妹らいと数麿
二
まのしるく続子島の陸くよ角
終と風まうは世無寅こ注素
小納言は本秋に常さうるて水
納戸の御を有しる糠用於鯨を捕角
媒掃を初の翁歯原こうすに入麿
風いくまさく水かるるに水
荒屋子こるみ松屋をたく素

掃しとは白骨の孫衆仕て居さる麿
多之利彩絵をよもむる板出し角
孫小侍豆殺子自の詩を刺也素
霄多のかるく芭蕉子をる風水
花の子の新子年を直きるし角
接子多翁を つるまるる素麿
三
不帯子ひ見さ子八さ手の子を掃水
箕こそ見て言く庭こくふん素
本のしはかるしの枝子芒干セル麿
山素時を抱こくを こ素
見ひ山子人八秋義子はさし角
木掃のお乳しを木八の唇素

弱屋子鬼灯の牧蕊興しる
踊物衣北能子しり浪　角
海の月仏仏坊主の夕葉子　麿
古葉ちう　やる夏の泉水　水
河骨北摩之ほれ蕊をもやつ子　麿
ほむしる子角ゑ即火と化　角
蕊地訪る根の底こ寄引しめ　寿
天火く閑の金ほうの蕊　水
三　坂江の鐵小蕊ハ志く浪子　角
寿海苦しい蛙琴を弾　麿
花の蓮花芝子旅仏を鬱子　水
角子秋しる東金の仏　寿

まひ志鐵苦麦ゑ千す豆　係　麿
夕ゑほ物く貴花ひしほ　角
桃の木子塚仏しろ小ゑ蕊　寿
枕の清ゑ志ほ　水
蕊の蕊をねと松魚ゑ矢魚　角
系一系仏志ほ　麿
蛙つゑを蹴　水
泥竹清ゑ　寿
子の松く石黄ゑ系ゑ子ゑ　麿
秋の里兵足ほ　角
名　配石人芳の小志布を千ゑ　寿
仏ゑ人北蘭　幸塚を枕と　水

[illegible]やも朝[illegible]けさ生小舟　角麿
[illegible]尾[illegible]を山　山志　水
麦畠の[illegible]を[illegible]　[illegible]
勅使　芋原の[illegible]　[illegible]　寿
[illegible]　[illegible]　麿
[illegible]やきの[illegible]　角
[illegible]の[illegible]生田の[illegible]の秋角　秋　淡不知
[illegible]　[illegible]　水
[illegible]　[illegible]　角
寺[illegible]の納豆の[illegible]　麿
[illegible]の[illegible]　水
[illegible]　[illegible]　寿

[illegible]腸をそ[illegible]の[illegible]の[illegible]　角
[illegible]　[illegible]　麿
[illegible]の[illegible]を人[illegible]　水
[illegible]　[illegible]　寿
[illegible]　[illegible]　麿
[illegible]の[illegible]　[illegible]　角
[illegible]　[illegible]　寿
[illegible]　[illegible]　水

同

[illegible]を[illegible]　才麿
[illegible]　[illegible]　楊水

ほそ枝とも葉ハ菊に寸斗ニ
能さいすゝ生海鼠腸く　桃青
ものこゝろみられの家しゝ
義孝の尊みをハ　世角
ふかゝ手鼓を投る　水
ふやつゝかゝられ風体林に峠　鷹
ゆゝ羽形をを見て時ふき　角
時ウ　きゝ世分のさいく俗分を　高
急ゆゝれしゝる牛る計手　鷹
ゝ文ゝ粧の戸板をゝ敷す　水
枯ゆく扇ゝ　角
製能の位きむゝ遠ハ蓮ゝく　水
辛形潔の男ゆゝ　鷹

骨カかゝゝけ弱のゝきし　角
疲ゝゝ　ゝの新手　蔵ゝつ　高
内子ゝ扇ゝゝゝゝハきの小霧　鷹
米ゝく　音付耳ゝ　寄けき　水
ゝもかびゝ業ゝ形ゝく秋ゝ　高
手孫屋士しゝ　新ゝの月　角
手耕ゝ高孫の歩ゝ　水
蓋　菓ゝ付ゝれ　ゝむ　鷹
二　居書の藪入ゝ　ゝ孫ゝ　角
新ゝゝ上ゝ　ゝの　高
陝巾ゝ　ゝ形ゝ空清の忍ふゝ　鷹
提　灯ゝ　ゝ　ゝのけろひ　水

風雨の前ぶれとなるを怪しみ
入るの山ふかみ猿子のうき
雷の斧丁々とうちきる音
言く又言し　　読歌の玉　水角
俗のいふ麻高の海は底ふかし　角
郭の内は東西南北　塚　青
何を愛で給ふ霧ふかき
ひとりのしとしとと雨　簑をもたず　水
身を蕭々竿の紫れ行　軒端　青
梨の実うるおて落ちて　角
雲雀の羽のいの敷ひとし　水
月出起ふく第一雪めき　青

釜のぶつ人八志のひとふうふ　角
椿をとるそ〳〵だくちの水　青
古家の法あり閑さまたけ　水
いくちの法ふ風のなりふ体　青
麻の葉に生る小舟をおすくく　角
ふる牧さまふる生の海柚子　水
きくれくて清水味とすむ月　青
めくく霜葉をつけ海ます雪　角
屋宵の食くく法に夕つる　青
人死を待くく刺ふ人　角
石ヵ日花のめくく咲くふ　青
木ふるるて風を香　柳　水

三

武内蓋ノ法ハ霧ニ書シレキソ
弱ルノ進サル舟キラクレ
大根の葉越の関のこるさう
ものかゝ舟ニ文付てやる
おとろくや火鉢の姫の絵空を
ろろひ京子簾紫引つる
ちやしと箱入ろろにしろろ
面子首の法たくすむ
やもしれ恨ろ子めうけ塚
桜ものおし今時りしろく
ろろい有る村風ろ三味線を
優しやすい法ろ子この

書
角
水
鷹
角
水
書
鷹

秋の雨後ろろ子ハ
住村ゆろろ栄れ戸
二
ぬしろろく子ぬを打ひ子
法ものしろ法若の書云
意時の松ノ姫れ花の墓
書ろ子ろ秋る重の神
ト四し澤れ箱れ走ろし
地の家立ろ子れ打ひ
無法ものを居子仮の弱性弱
法子の四 美 撥
四ろ家法味子の書ろ
志尼 嘲れ敏ろろ

角
書
鷹
水
書
角
水
鷹
角
書
鷹
水

去年の秋なり松の木つのりて高
が里子庵に紙引て入 角
松茸を乞しまのくハ松いろろ 水
栗の樹子 まるのいず 唐
名 綿竈ゴ蓋の毒を忍みなる 角
見袋さき宮子風雨をやり 高
扇形女ハ方なる 唐
丈ハ江戸子 ちいさく 水
ちいさ一歩さきの物と俗やみく 高
歩まる筆の子 角
松に来て上る 水
住眼ら書 唐

書過ぎ方の匠の方のうして 角
獺斗を冠の繻子形すけ 高
ぬるしなる聚蓬のうめハ松茸 唐
有国ケ くハ茶 腥 水
風の有趣の体雲を張あり 高
高なる小信 角
山紙くいちの毫を宣高れ 水
筆の枝形を持てまる 唐
見高の極を深くこめてお 高
毒をうたて人の明けるう 角
無を塗る風方を形る獺く 水
古書を取て 唐

[illegible]
孤ハ酔しく醉醉[illegible]入ル　吉

同　竹無
附贅[illegible]
[illegible]用ハ枝を[illegible]
[illegible]
[illegible]種の四出[illegible]

楊水
桃青
其角
才丸

天和二壬戌春

弥[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

悔しく後の祭りとなるやうな
拵物の数一つのみならず
仏御坊卒塔婆を写すのみ
八幡の内子宮も輝く
味噌樽千石家浦の戸ハ
閉ぢて赤のくく義のハ女
禽獣の花訓詁の凡入ハ
杖子地をさきうち
二
仏光の形をさしふり
弥陀寺子宗さ
拳の代八陽の所と我しし
移り物言くこ歩子一樓

燒豊定尺仏並肥子燒豊定並

玉流清く陽陽の土瓜を陽宗し
牧の家遠子垂をかくむん
牧ノ解職の偏ち旅を
根のうくこまし仏陽尺和
自義ノ書子仏を実ところ
仏堂書れ面をひそめく
衆文彼ア矢つ子ちる寺く
理の樓子餅義ひける
寺の五意浪中ニ帯子角牧
猫ロさしう義のさハし
三
仏さう陽子斎ま子龍姫
義寺の更寺を子ちる

燒豊定尺仏並肥子燒豊定並

吐雲霧波の中に浮ぶや似
紀の舟伊勢より丹尾張熱
波八面信濃ふみ和歌
賀橋千鶴子 詠
ゝ宵手志茂ん仕掌を奏ふん 晩
梅の枝に小鳥とまつゝ 吹
庭鶯撥ゝかられて反る 尺
いゝ歌後先に義理加は 子
世さゝも院千代を偽れ 蓋
おもみの分け梅風を含ん 雪
恋は軒を花ゝおゝ 空
当染のみ葉ゝ 楪の 角

三

古事記の月の光ゝ
雲まのゝ山ひを枝つく
山ゝ桜ゝ雨めけ哉ん
郭の篇 仲
ゝ入玉箒の風雲の 似
ゝを新ゝ不二の株上 貝
松葉の紅葉ゝ上ゝ
珠ゝ雲の密柳 秋スル 謝
成下夫ゝ餐生ゝ 嵐蒙
松小刀は吼 ゆけて り 晩
安稔古和世稔の杉千屋を杉て 岐水
カゝすゝ云 提ゝゝ 晩
角
雪

[illegible]

[illegible]

[illegible]

我可り純古て胸の中迄と　吹角
閑廻者　焼所手傳て
肩を結く　短舟に乗る躁く　焼
奥ゆく　の伊勢　陽の塀　芭蕉
篝火を刀で　けるまの巳　葉
浪ハ井筒　かくよう蓑　人　手
物洗ふ鹽を　ゆくに　焼
蓑つく　阿れごほくし　樹
市鈴の市　を少る本陰ハ　焼
り傘ゆる　姫と男と　葉
云ゆる　飛手をまけ　吹
物とも思ふ　袋　柳　灯　壹

花の紅く　堂人物手傳て　蓑
八重　　蓑　茶ひ小て物　角

て和手中　　秋風
野ゆゆて伊賀の山越ゆ　の壹
多ハくもとかゆ　武い武地　芭蕉
店賃の宮ゆ　軒端ゆまの来く
とゆかゆ　中ゆ手多　い風
蓑白船ゆ　ゆて多孫の月壹し
徒ゆ　茶以　後八八の七の
病ゆ　ゆ　ゆ　病手宮　蓑て
きのゆ　海ゆ　徒ゆ

[illegible]
[illegible]
[illegible]

清流を擁する幕の外なるのみ
欠磯の外一二寸ほど
伝まるら浪めぬ拾ふる花のみ
江戸千代上野ふまの色

芭蕉

同

玄冬を春を孕んの外
菱を抜ぬ湖水湖水
蕎の葉千酒濃仕れ白鷺
法華ふ野路ふ蕎麦ふ
面白ふ紙の張なるふ
さうさう二十八計きん

廉州
一品

きさらぎ初や武蔵野の物語り上
後家鳴吳雨の翠篠の長かられ
かうかうも旅ふかみ名月の里
文ふたたびの門たたくおと
釣り垂れを賣る人あんん
一盃の粥千江の焼石舟
ふ蕎麦惰しと為れ
呂る風 張ムル 倫 乃 雪
クツロ多り鞘 中毛 ヲ知角 巡
時 萩朱也 ふ ふ 雲 紫
花ふを橋ふ御ふ
蓋尾ふ ふ ふ

陽芳の異風屋作りの大工
蹴手樣式百年の棄
手彩のくらうれ是芳の絵を引
柱のう板は清手洗うれ
無手後の甲を彩手のけ墨で
解をおもうる大きの 仏
長史ふう宅食ハ京の菜 什
手布をふとしる生菜の叢
崩ふう頭ハ久多れ蝙をう
古仏の般手仮寿をし月
彩をしられ蒼山伝の絵めれて
仏白雲の居こう ふう

ちきう牡丹ハ屋の加宝大手
白袋絵躍の和色 弦
糸注色るて編さう面陰れ
夕新長若 且ありうん
九州県手ふ寿本岩を 妹
序き古彩ふう 夜の文 橋

同

故什垣絵手木瓜も栗京乳
笠柳しの和の実彩面 一日朗
故浮ふ栗手 橋を排ふん 芭蕉
市手小宝を絵ふ 新 月 蝋

麋蝋

良宣の屋ハ小袖を打うけて
紅白の菊酒千甚を 掾 晶
郭公ゆ郎堀面のうをくく 逝
全人ハ掾をすりて伐る 附
掾与共長ハ侍篇をかりて 晶
上宣の郎をいくるゆ三 逝
うをを玉の縁を篇千彩う 附
密丈 配よいめちつれるゆ 晶
郭の郎のうゆをゆを越るて 逝
うしと 鬚 きう 菖のいりう 附
母の郎子ゆのをを月を郎を 晶
うも 能 くをゆ郎をへ 逝 附

通郎業の陽の雪を祝くうう 晶
掾 沈 清 を 弱 掾 子 ゆれ 逝
玄風の他子 強 を 子 ゆう 附
かうすハ孫を告るくう 晶
院の四子 餅 宋 苅 ん 界 逝て 逝
青 義 清 れ を 月 識 する 附
風の 清 掾 の 芳 を や 掾 ん 晶
月野を 伐 ゆう 芝 行 の 逝 逝
新 き 塚 ゆ さ ゆ ゆ 味 す し 附
奏 を 後 れ 臣 子 いる 英 う 晶
ゆ 金 を いゆ や 養 去 を 賓 を 逝
琵 姫 も 掾 れ ハ 酒 くくし や 附

十年の三年を老の九十九髪　晶英

窓のくらら合佛　ちをく　附

蓮生ケ火を清狐来るうら

狗飯ちを寒ゆ　紅　晶

為ちれ野おケ風を買て　英

杖ケ巣を為る梅の代　附

俤の金を　花の浮世人　晶

る蹄ケ新　おくる春　英

て和三愛文手　芭蕉

新ケ為ち無風を食英し

鮒ケを為ケ陽先の痩　一晶

郭公て書塗文と陳うん　嵐雪

寺ち　作を　ケ初ル　高　梅　世角

身を得ケ行の義を芦ケて　嵐蓑

浪のち歩ケ　ちふと　弱　新　牧羊

ウ　芸　浪ふ命ち　初ル世角ち　晶

朝ケ寺ケ　ちふ　紙　右　英

浪人の立ち　を結ケ　思　百　重

やふの一歩ケ入ル　ひて　ふ　蓑

英　横　同　宗旨を　撃ひて　角

為ハ退文ケ　肝　魂　を　奪ケ　晶

雷ケの初ち　ち　爺を　ちん　英

沙　思　歩ケ　松魚　及　体　重

黄帝の殘を持し永代より　品
角織子角をつくる所故　角
ゆゑの格をもつて学の角　業
破笠　張りて詩の上を次　重
二分解子西瓜を殺すこと　蓋
つくりきめの松浦氏格　品
矢つくる格所豊底の豊　重
豊ハ私はさうきの　業
格入れ新ハ六十の前　角
陣所子故中をうく者と更し　蓋
人の情愛結髪の宵の驚子蓋く　品
杉たるかの者の内われ　重

きさらの陣中を仰ぎ　角
山野子飢る餅を食る　業
岩井の身る伯夷ら見給ふ　蓋
木綿ハ武士の情　角
二尺ばかり書を横中に　業
名ひさんやこの詩を　品
晩の霜を毎子覚れて　重
孫子裝んを　蓋
名る栖屋山の列をくぐる　角
格子すれ子澤布を酒欲　業

同

酒債尋常往處有
人生七十古来稀　甚角

酒のきんと手をとる浦伝ひ
冬一湖日暮テ鷺ノ島ニ鯉　芭蕉
千鳥き夷子関をゆくもむ　角
三綿人の思を注し学
月ハ舶こそろきゆる勝の上よ　角
時の雨ふるし
恥ノ雨ふる伊を　蕉
財雨ふる紀加ノこのふを茅　角
毎竹のとてを春後ふ
物陽のそ千春夏を蕉　角

一の蛭里の兵力ある大船　蕉角
軒角ふ子ふ子ふ魅を責ふ　蕉
伊ふきふ怒の雲ふ峰ふ　角
浮寄ふ志ふむ市を食の夜　蕉
岩を花貧金ふ宝八さん侠　角
芭蕉ふ子の地ふ子ふ人ト　蕉
腐れふ俗伝犬を吟ふ　角
鯉ふふふ二富如夜秋月　蕉
二算入の金付ふ子沖　堤
行ふうふ出ふ菊ふ子ふ　蕉
嘲り二黄金ハ鑄ル小　蕉角
足鍋ふふ　おふ乳　蕉

枯藻数茎堀の角をさそれん　角
鷹神を使トス蒸海のまゝ　蓋
鐵の弓取たけき妻むよ　角
虎　猪子姫の子のつき　蓋
〻宮く四隅の床を吹あし　角
押大潮さ指のもし吹　蓋
下国后彩を妖を用を　角
西瓜を綾よつてゆかみく　い
「表」のよ宝珠神のぼる吹海ゝん　蓋
みちれくの東しぬ石　角
武士の躍の九角　枕　このす　蓋
八方の弱れ方さと生つて　角

行あきんゝ花を食ハ海侯　蓋
春一湖　日　暮ヲ　鶯ハ　無ニ　吟　角

同

一手三百六十日
夏は吹雪三は　向け喜きと　李下
鉢やゝ手やし　大根ゝ舟　世角
妻ゝ去ゝ浪子　梅つん　い
角を井の踊戸や　ゝ
ゝ和ちき生業ゝとみゆ　下
百を手る狐と秋をくさ大し　い
傾婦を業の蟬ゝゝ　角

敵ハ[illegible]の[illegible]を[illegible]
然ハ[illegible]一番の敵　角
文育丸金[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]　ハ
[illegible]　[illegible]　角
世[illegible]志ハ[illegible]　ハ
士峰の[illegible]を[illegible]　角
松[illegible]　ハ
[illegible]　角
[illegible]　ハ
[illegible]　角
[illegible]　ハ
[illegible]　角
[illegible]　ハ
[illegible]　角
[illegible]　ハ
[illegible]　角
[illegible]　ハ
[illegible]　角

[illegible]
院の[illegible]　角
[illegible]　ハ
仕[illegible]　角
[illegible]　ハ
[illegible]　角
[illegible]　ハ
[illegible]　角
[illegible]　ハ
[illegible]　角
[illegible]　ハ
[illegible]　角
[illegible]　ハ

二ヲ

紫生絹を無数奴ぬきん
すり鉢ふくさ　　布袋　　正
寸法御切の衣紋丹一の紋不　　芭蕉
皆を力むむ卒塔婆大　小　　正
仏の名門を又を名の　　角
凡丈三百人の書の名　　丶

寛文十戌年　　助勝
天下名を名さを凡之助を名を衣
文之一の子ゆゑ正氏　　正敦
加ゆ作り御系図まに又後一　　宗房

同

拔ハ家の玉茶方の一紫切　　長忠
くふ御文の形子つよ秋風　　定能
冷一き石ハさをう虎子似く　　宗房

同七未年　一百附
扇を美物のうるものハ印新和
くを行ゆけとゆ御おりの家　　宗房
好生　新のひとみをつひる
志和のの鈴御ゆうを無のつを力　　方

[illegible]ゆう [illegible] [illegible]
[illegible]

延宝六戊午

大張屋の[illegible]もに不二の[illegible]
[illegible]れ舟[illegible]の[illegible]　飛青

虫の[illegible]の[illegible]とて[illegible]
[illegible]の井ごの[illegible]

孔子ハ鯉[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]の[illegible]食の生者
[illegible]酒[illegible]
[illegible]の若[illegible]
[illegible]
[illegible]

雄のうゝゝ葉のや入めゝん
大津高良瓜と高良の浦波
、
我名をかけつゝうらいてよんゝと
敬千うゝうを尺をる尾つも
、
桶ひとの物の高をとゝめうゝ
うゝれ人写を抜のみをの出
、
高雲うゝう雲此秋をゝう
高綱寺ハ行方の海浪
、

ゝをゝをゝを尺れハ紫を裝束
神うゝうゝ雲をゝんゝゝ
、
うゝ寺寺既千雲の雲ゝ雲時ハ
御寺をきをゝる鐘金の色
、
物のゝゝ雲葉沈香の束
世界をひゝうゝ大砂祢
、
寺情千をゝゝよゝゝの海浪
紗綾写人寺高のゝうゝ高高
、

上八郡さし中ハ所 算
えをもとに弛る物とその種えを
四千かぶの長物の ふる
送り給ふ所をとりあつめ
為の物を海手流めて能
女院 詠うれこ信の尼舶
大阪の堰屋うす多集する
唯信性の方つてき稲葉山

實以とりあつめの書ゆの書
みのをを小槌ゆるゆるの
多響手及ものもと流すし
芳蕾のうつつ刷力をとぐ
詠すよく似さうひすよ寄
見さ又ぐそくく優婆夷ハ入性
高見うひ き 保尾の年
苦悩ものと木物ひをかどてて

さくらもみぢは松浦とかや河
なれ舟のうしなひ京橋

天和年中
伊賀歸集物　青府

栗柴尤山宮余屠の秋ふかし
自紀師子の宮一の戸の松　一瓜
沙弥庵ふる家ハ坂をゆのもりん　桃青

天和四甲子　李二

芭蕉翁を慕ふ会白ふ雲雖ふくとも
月と雪ものを食　芭蕉

梢枝手折のふまるる秋のくれ
孤ふるふけゆく雪ハ星　芭蕉

俳諧一葉集附合々部二

古學庵佛子 編
幻窓湖中 校
坎窩久臧

貞享元甲子歟

紅白赤枯の芳八竹高似る一面
たそやとゝる星は山茶花　野水
雪の夜水に風流似るをそ　若子
うしろは雪を踏みしめ　東　重五
新鮮のかゝる寒の白ひまを　杜國
白の雪を踏て栄を　芍　正平

水翁

五号

玉

水

玉

号

翁

五

水

五

号

翁

五

号

翁

玉

水

号

五

玉

水

翁

五

号

しらの結帯ふ　菊
箕手飯は自魚をいしいき　玉
手形のうさりは星をしむへく　芋
ゆうそいてもとのまゆうをり　水
殘ひとへ居ふ春賀の花濃さ　玉
廊おハ蓋はれうけはしふし　五

かるくもは壮年ふ衣をふ　野水
仰雪はをしは待まし物ふ
ゆうそ　まさ尺ふ物の食　杜國
かう菊まさく秀ふ蛙の羽わ　菊
うつふけれとはひく　芋

麻そう月物ふ鶉殿をはまむ　重五
桃ををあ自の宮　正平
面ふゆる海魚の田螺ふ植さ　玉
おくのきさ紀を只ふふふ　水
床文ふ鉢桃ハいとふる男　芋
鶉まふけのふ鶉ふし　菊
口をふと鶉をちまふ力ふ　水
ゆうそかふふ首おふ春　五
小三ふふきふふを一ふふ　菊
自ふ春ふ牡丹ゆふ人　玉
滝あみのかふハ鶉れ蟹ふ　五
ふけしふのみ地蟹きふ　芋

秋もの安らや姫はいの先一く　水
秀ゆくらはまをかくゆき
二
桔梗を餅すゆ望月のうち　芳
うちひす起よ孫猶もて　翁
簾涼く榻を柳の葉さひし　水
三　孫一うんん不殺の耳人　五
芭すう美濃をあらう碁を寄る　翁
紙さ先くれさてを七十　岳
なかめう法華を寄ゆ　五
ひうゆの傘のいとうさす　芳
蓮沈う後のうまふみまう飛　水
寄うをつうう後松を海　水

有うたしう宿猫の髪の毒のれて　芳
毒きぬ雑沈海を　芳
二
秋惜は寄うあきく鄭さハ　水
翁の傘つうふ雲ゆうの甲　五
被うゆ祝をひうき山ゆけう　翁
ひうハ典仕の唐う内仕す　岳
三ゥの也節粉尾出はう軍　五
ううみいうれ越の猶保苔　芳

杖をひうをうゆう十歩　杜國
仕うみうひう有うう霽小
おうみゆくうれいあつ丈　重五

百年の紫を初 野人の名々あひて 野水
小の伊門を外 ほけの 素 翁
ゐ蓑掛ひかも 他のあうすみ 芭蕉
第の浮世を ウむ神ぬきのたんち 四年
らけを物ゐむ娘の つぶて 五
炉義ふ ゐけを 情ゐ ゐ原 正
紙義の角力ちゐ ゐ 翁
蓑ゐ ゐ 賀ゐの切 水
約月歌及ゐ ゐ 玉
ゐむ実ゐ ゐけ ゐ 芳
ゐふ百の業ゐ ゐ 水
房婦の果ゐ ゐ 五

籠まゐ法浪のゐ寅れり 芳翁
佛 ゐ ゐ 魚ゐ ゐ 五
数ふゐ ゐ 三所と作ゐ 正
五形ゐ ゐ 形の ゐ ゐ 玉
ゐ紙 ゐ 時ゐ ゐ ゐ 翁
二
古屋の ゐ 和ゐ ゐ 水
家嵯や ゐ 紙の 橋の 長 ゐ 玉
長原の 松 ゐ ゐ ゐ ゐ 芳
松 ゐ 栄 芳 ゐ ゐ ゐ 水
二十 ゐ ゐ ゐ ゐ ゐ 五
ゐの 粧 ゐ 玉 ゐの 笠 ゐ ゐ 芳
ゐ ゐ ゐ ゐ ゐ 和 ゐ ゐ 翁

[illegible]

[illegible]

[illegible]

火葬ぬ火葬ぬ人を入れ
門ちの前ち銭百文て前る
血刀ぬ下ち本郷の殺せ
多ち川殺生たくふて
殺ち法橋の繼て拵ちる
信もの一ち歎ちをのむ
白蓋屋敷を明を改ひ
宣有ぬこく叙を賜る
八十年を三ち尺ち童毎拵て
ちっちちもむち七ちの妻
百貫ち桂の殺ちつちむ時

菊正
水谷
笠

蔵ち入 納ち ト木ち拵て
時の家ち焼ち女尺て拵る
拵瓶ち乗ち後ふちの蔵
体ち本ち拵ち正月に
つちちの日ち毎蔵ち宝
木の日ち夏を殺法の長老て
ち川ち拵 き南京の地
ちっちちもち人の像
泥ちちちの拵き蔵の松
術ちる焼 ちち一ちち
特 右の ち 殺ち 拵
小の分ち 蔵拵 ちて

菊正
水谷
笠

[illegible]

田家秋望　[illegible]

[illegible]月や鶏のつくづくと雨ひとて
[illegible]の[illegible]あるかなる　翁
[illegible]橋山家の[illegible]俳幾本柴庵　重五
[illegible]なる牛の[illegible]れて　杜國
[illegible]畑足よりのうすしと　明笠
[illegible]酌とる童[illegible]にいて　野水
秋の須旅の[illegible]　翁
[illegible]やくとて不二尺ある寺　芳
寂とさく[illegible]の[illegible]の[illegible]　玉

[illegible]

[illegible]の[illegible]　五水
[illegible]の女五三十　笠
[illegible]の[illegible]　芳
[illegible]橋尺も　翁
[illegible]の集[illegible]　五
[illegible]と[illegible]　玉
[illegible]多い[illegible]ある　笠
[illegible]本[illegible]の山[illegible]　水
[illegible]ふみ[illegible]　翁
[illegible]ふ[illegible]の[illegible]　芳
[illegible]の[illegible]を[illegible]　玉

[illegible]

[illegible]

[illegible]

同年臘月十九日　菊

海苔の春の野の春の白し　桐葉
岸に鶴を問ふる　鶴　東藻
二百年系図山を拾取る　工山
樹の秋まく秋も暮れて　紫
入月の影は入るのまくれ出る　菊
雪の家おそれゆく　山
海面を老ふる母のあるさみと　蕉
一輪咲くし芋の　童　菊
椿の工夫二ねとらしる貝をゆく　紫
用年問ふ狐ふく　蕉
雲老ふる河系ふふふ芋の宝

菊表をけふる松の入に　山
笠ぬぬく石の砂壁で宝ふる　紫
秋の鳥の人　菊
をふふの壁ふの後八月壁で　山
夢れ雪年　蕉
おくもる石の扇を拾ひき　紫
美人のかふちあむ砂　山
二　蛾夷の舞砂ふ　菊
生海崩ふふ　蕉
木ふふふ砂年海巻の壁ふく　山
藪年　月砂の十ふふ人砂　菊
ふふと地孫化る祖父ふく　蕉

糸千為寄し　病のまし　あひ　紫

不二の根と　呈先て　重のくるう　翁

宿よりゆく　郭のひと　為ら　む　山

まつ　雲を　後を　見ひらき　桂い　紫

花うつく　小姓　萩の戸を　押　萩

月匂く　みず計の　ひき　八ッ時て　山

桂いそく　きくの　うつの　秀　翁

彼れ　ら　異見を　出千　行ら　ける　萩

言　葉の　数千　文　仕ら　て　紫

紅葉の　色　弱千　花の　色を　絞ら　翁

ちひさく　宮の　永むら　の　伽　山

青面の　新　書　表　標　為ひ　本て　紫

青　子　ちら　す　萩の　撮　杉　萩

為　年　の　ち　む　面　り　て　秋　の　ち　雅　雷　校

世　美　て　こ　ら　ふ　風　の　や　も　呈　翁

花　の　色　多　の　ら　ま　は　翁　の　色　鱗　延

秋　ら　ま　れ　ら　蜂　の　ち　り　き　れ　翁

沙　の　猿　も　ら　し　拾　ら　む　本　紫　の　れ　嗜　山

すゝきの雪に埋れ　四十　一　翁

雪をかぶる松のもとに帳をえらぶ　如行

古人の中に此の木のうし　翁

翁義俊行くすゑこんとの名ハ

檜山を雪をいのちのやうに　桐葉

稲一つうるゝ足洗ひ　みゆく　翁

きのふさく松に鶯のやうに　翁

きりひらるる松原太　松　桐葉

雪をさく後る雪に埋れ　翁

本葉に炭を吹おこす　弥　閑水

はるしと猿蹴まれ多の木く　東籬

手のうらにと伯母のせはしき　桐葉

此海に苔離　松んに雪に埋れ　翁

むくるゝひき波のかゝ　蟹　桐葉

木枯に踊る人の伏く　東籬

叩端　如行

木因

貞享二乙丑年

三月廿七日

叩端　桐葉

十三

燈火風を吉のふ紅葉　四　蹋
川瀬ゆく響を角と聞こけく　葉
今利とる　鹿を新口とるふ　翁
かりこまる　雨の降時の花久し　蹋
雨打て　風をとうる　腹や　葉
二
寒よみく　世を　養おとうる　翁
枕　屏風の　絵　係　くみ　蹋
ものゝ枕し　箭のいろこの壁さう　葉
三　殺の　舟　源　川の　板　翁
尾作や　ひゝく　杜律を　味ひく　蹋
花こゝろ　竹こゝの　葉表　葉
ひゝく　時　鳴八　吹を　和ひゝ　翁

水波小　信　神ひゝ　蹋
月ゝ　ゝ　步　板　葉
ゝ　八　花　の　作　翁
村　の　ゝ　き　粉　蹋
ひゝ　兎　の　瓜　の　葉
三　尺　ゝ　人　八　蹋　と　翁
男　や　も　の　ゝ　き　蹋
風　ゝ　き　大　手　の　秋　七　や　葉
海　門　を　ゝ　く　生　鯉　の　養　翁
岩　磐　山　岩　船　ゝ　動　ゝ　吹　て　蹋
ゝ　ゝ　ゝ　る　生　要　海　の　板　葉

同日

つくしと桜の色み強くなる
ひしゝ葉をとつもゝ葱の一家　菊
夕霧に映雑の雛を整へ来る　叩端
清水をすくふ掬ひ上げ　黄口
松もしらき枯もを鶴の脚の上　東篠
高の古寺に撞木を打る　工山
鼻　我子を抱き出の遠寺を分く　菊
芽ぐむ大仏寺三井の降きく　端
寺と俗世の嬉り鶴と尺よ　山
宵の鐘ゆく暮れ四区百の古　葉
松風のひくまに酒を飲む　口

佛をきさむ屋谷の信　庵
鳥羽玉の撃きく女寄来て　端
逢を夫婦の影の月　菊
秋八郎只青ゝ物をひろ　葉
白子の古史系方の海　山
浪ようよう鶴の背を載く　庵
波打ち松の枯ゝ尺を　端
二望持ち寄て居るやき男　菊
五重の塔のほゝゑみ　植楫
鶏鈴の屋を嘴の囲に掛まて　端
風に多を置くの討死　葉
華ようく杯の度毒を引抜め　山

[illegible]　菊
[illegible]　菊
[illegible]　菊

蒔の時これをくまの魚　菊
手ふくろ手ふくろ家毒の一年ゝ系　紫
かちんのうつて出　竜　湯
ゝすゝき蒔ゝたゝきも武の屑　菊
狩の大ゝ山　今ぬひ〻華　紫
ゝゝしとさゝえゝ海の陸ん　湯
谷吉風をうつく舟の生ゝ　菊
花毒ゝをおゝ尺ゝの角夫金　紫
蓋の泥を蒔ます　屑云　湯
出代の編ゝさけゝる杖子履　菊
手ゝのなゝるゝ風出　紫
地雷火ゝ遅ゝ浪の志ゝう　湯

絵の掛ゝを　枯　柳　菊
作正ゝて重の雪ゝ養子椽　紫
ゝゝれて遅ゝ飯の焚ゝう　湯
お菓毒の雨ゝむゝひて扇　菊
松の乞食の恨の奪る小雪　紫
物雲ゝ紙ゝ松ゝ上歌　湯
正の雪ゝゝく毒の柳箒　菊
場物の一ゝけ四ゝつる月の雪　紫
風ゝ紙ゝ神ゝる雪の白砂　湯
桜毒ゝいゝ川ゝゝる仲弓入　菊
毒ゝゝく毒を絵千ゝ　紫
燈口の焼ゝ一ゝゝ椿油　湯

海さわの松は風ふく夏ながら
花はなほ雪ふるのまつ紫引殘め　菊紫
うれしき角　紅葉は嬉牛　端

同

秋もしら木の四角の板柱　菊
京の秋つく咀の麦　東蘇
生のまれ気をのむ新宮まち　桂樓
かけろふ[illegible]る竹の海棚　叩端
俗つと聲の絶[illegible]　桐葉
ひさうけさうなる山の松　工山
[illegible]の天宮を海苔さ　友

狂歌の作手等を呂　このす　菊
事　[illegible]を[illegible]む女　[illegible]の　閑水
ふさけの市と上の能うは　楫
[illegible]つ歌[illegible]の[illegible]戸宮蓋て　紫
ようをる　[illegible]れきしるるる　水

同年六月二日東武於小石川無名
清風
清さの[illegible]
[illegible]
[illegible]
松風の大[illegible]第時雨けくて　菊
酒店の秋を降るゆるき　嵐雪
社の[illegible]の蝶[illegible]　其角
[illegible]　才九

蕃懐作くく香子志しく　口腐
ちの詞を今いかきまつ　素堂
種を花あれいやひの　風
売てくさ仕清いかを　菊
おきすしとうちやう　雪
戸ウ庭の小い小鳥の　角
の実梨もてあり父の三　九
実新よくかれ自慢の一忘屋　菊
舟子　紅しいのちゆきあ　雪
面をかり故きを火いく　風
茶屋ひれもを十　夏
既ちくの蕎子まれ人きゆさむ　菊
　　雪

所作くく白眼ともやちの　角
映鏡荊子ちのくみ月よよ　九
浮猪猪ばんあのくむ秋　富
樹の実北傾ばん蕎子　雪
くくくくを美婦妻き　風
花蕎ま五の風八俗いり　菊
小糸をきと九山の　雪
三尺の鯉子小能子料理の　角
ちや魚あをくむ叫ち　九
幾四の我ひいを受やち　富
逝水やくを拾ぬものハ　雪
白ものくう酒をの十五な　風

支離滅裂の風情の遠くはるかに
ながめやらるる美景を
一息あるの間を二羽しら
鷺迷ふ如く輪の羅を指をれ
き如くの衣冠をつくして法
のゆかれかつくしの人のさまのや
古梵のせうの紀貫也をも
ひろうしれ者陸奥国
引板を業とするものこの番く
武士のものすきまき鳴い
七里法華の七里秋風
四三の霄南北を化し

菊壺風菊九高壺風菊角壺風菊九高壺風菊

槻の小ゑ。きく紅葉すす
陸奥紙の篇を手にまきの仮屋建
狂女まとゝまる紅葉ふかる
情しるかハ青金の杉てゝ
桂く咲ふ出羽の鶴
宝月のこゝふかうさゝ
杖をあゝしのつゝ萩萩
鶏毛れ筆を執跡をくるのみ
三里をすゝをる不二いまを見れ
雁をゆふうゝ交をかへ
まを結る小の晩ね
三陽笑をまゝ猿仏く鶏うき

菊壺風菊角壺風菊九高壺風菊

砥水きよむ五郎入道
悔まさハよ戸を繰りかくこと 角
ぎちをしてそ風うぶる藪 九
伊線すれ河柳の数ハなしと 高
入院人商の出う砂ちは 豊
一陽を警正角をやり来て 風
海桜よりうりやや 角
深屋の河をあむれ 豊
きのふれみられ寝もしい 角
くむ幸とハう紀川竹をたつのめ 九
多をつかは返きをしてをつハう 高
后の角ぎて入尉むる 吹 書

三
みの出れ狂行つ
忠そ
郎屋れ石西四
小女郎小まんる大根戸
坂をそそく起結もけハ鶏
尺よ水の丹の河ハ石むき
海ふのの根をさこのの新清
河源うう 憤る 宮 風
そそうれ旅宝家家家ふく 角
ふうこと小狩の中山 豊
枝花をそもく角の河 九

[illegible]ん何のしら籾
[illegible]舟の[illegible]
[illegible]を[illegible]
[illegible]名[illegible]人ら魂ハ[illegible]
[illegible]
[illegible]

梅さくらしきの御をぬすまれし
板葉を分すると二ツ三ツひらり　菊　秋風

秋さくら事葉さく枇杷の葉紫
笑ふてうくく山茶の花　菊　湖春

月の雲秋鶴の雲を吉くく

櫨の木は切り分かぬ盛の角
家すゝ出をはくふ乙ゝ　菊　秋風

物語ゝ今何な　湖春
春の雲は蚕　寄ゝつく　菊
菜の中ゝ蕎の色の黄色

かゝまの柳ゝ紙ゝ　菊
山ハさくらを役ゝ雨　千歌

芭蕉翁ゝ御の代
文三ゝ　知足
文学ゝ事後ゝ
笠ゝ文ゝ富の和の花　菊

貞享三丙寅

御懸硯

日の[illegible]の[illegible]の[illegible]

[illegible]の舟の棹さしてむかう狂者の体孔
[illegible]物の[illegible]太体中[illegible]赤特と付る附句
大切し

酒の幔子入遅の用　コ齋

四日月ふれハ移し千[illegible]の拍体酒[illegible]
まのようにゆ付る幔ハ[illegible]
[illegible]
秋の山[illegible]れ[illegible]ん　芳重

[illegible]
[illegible]

[illegible]大中[illegible]年[illegible]字大切の句
[illegible]人[illegible]
炭かり[illegible]　枚風

おの山[illegible]の体と[illegible]て付る[illegible]
[illegible]山[illegible]ハ炭竈を拵[illegible]
体[illegible]
[illegible]人の[illegible]尺付る新[illegible]
里[illegible]の麦[illegible]の[illegible]む[illegible]　仙化

附句[illegible]炭[illegible]の白を初冬の未
[illegible]
[illegible]の[illegible]付る[illegible]
[illegible]の[illegible]弱[illegible]畑の[illegible]
[illegible]おのひ[illegible]よ　李下

見出す事なし伝を付さるゝもの多く伝を
強めらるゝも第一里しの表と云ふる
より旅伝を楽ひむし村ゝ人なと
うるハ一きくの雨を伴ふ伝る事等
毎日雨降よる郷

雪白

雨ハ三角とあむ雨をあれハ
雨もなくさ伝者の色深
くれさしうるもなくさ伝者の色深
うれさしうるもなくさ伝者の色深
く思ひたてうるもなくさ伝者の色深
あるもまたて雨をとひうる心深色伝る

朱弦

念仏一ヶ所の伝ハ川くよう
此日うる川うる無をゆうしうるさて之神
社之仏事をいもものと系譜の伝も神

あるを社伝ハ之角ハ所中ゆう社ハ
之通る里の伝さよくさ

蚊足

伝ます〳〵く事の無をさすん
無をすの無をさすす陽ゆし
度し系人のようもゆるもの二入
改ゆる伝

五里

かゝるもよりもゆるむ松の事
ゆうる通ゆうし雨之ゆ事系子
軍情を楽ひたをゝし

箱

ゆ、の利ゆ歩島帽ゆ云ゆける
陽松雨系ゆ一ゆ白耳の雨ゆ又
一百文ゆいひゆ耳を利ゆ子云

[illegible]

の姿を目眼をとけて尺くし

くき女は家を富の尺ばかりめ　執筆

お白を標中にて仕[illegible]匂ひ[illegible]

しを[illegible]て世を捨て

[illegible]を[illegible]

[illegible]の本稿の[illegible]

家は只酒[illegible]は世を[illegible]

[illegible]意の白を[illegible]本稿のもの

[illegible]おく[illegible]

[illegible]

の白[illegible]

文鶴

後住女き　ぬ　し　　供箱

[illegible]住女は[illegible]

[illegible]

[illegible]

いのちを甲斐の筏とも尺とる　拙仏

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

男ひさくらう清八ら不の出一ッ一張弓
次ぎの濃十市の里芳野の里玉川なる
附く作者手伝く作りもの黒鍬の
源系まを不二刀を更科し自作る高
野八白の形宮ようらく先まを出ようす
むいはりるし

[illegible] 代の刀うつ 張作 查云
白鶴市の高特し鍛冶人しいひ
作くを作正ら皆ふとは物を作るまり
石の戸樋なと云て一張作をくい
よきをら孫宝し源きに秋清なを水なを
ひ公剣をを人くをしかもひよう一白鶴作

おこふ[illegible]之代しをうて狩野屋の張作の
名人とをんなし

永源八を[illegible]しく松の風 仙化

永源八を野代をいをんを張作名人
おをく八[illegible]ものし伝ををを[illegible]
いをしおの白志のもゆを[illegible]作る景
よく少を作て歌味をしし

近江の国粕美野に取むむ 朱絃

古代の作し金をとをを昔とを白
昔八物無宮脇をを金をを一きを
人くを作一作る勇流山江八ちをを不
をを国粕なをの風作をを奥をを遠くし

疾走くゆめのちまきんぼくきく　芳童

月をを立合くゝうつしみ波を江と
一形をうつしみをゆくをひなしすゝ心
枯もしゆめのちまんくゝ走てしかゝ徒ゝ

舟子　夢の海　月海乃ゝ舟　し　廿角

月も水を清海なしにたゝの白倫と舟
こゝ夢の海なとし　ふゝ風ふ家物しさひ
うけぬ月をゝ夢の海をおすハ夢ゝの海
さしされハゝひゝ　あ物をおのゝ月ひ
ゝをゝゝ又風ふの逸士し

第九　人の　娘をゝ　つれさく　李一

さゝ白趣向白仮月和れのし具足きゝ舟

中に風ふ人の娘なし空さく夢の海なと
さきゝゝ仏ゝ立ゝ新し蕉味ゝし
松海の海ふ月安をゝ大い成ハ恋ゝ月の
月なゝと空取ゝゝ心さゝゝ月のつゝ花
空人のゝゝ海ふ海ゝ海ゝ海ゝ海ゝ海ゝ

除　勤　の　ゝゝ　ゝ月ゝ　ゝ月ゝ　松風

世白立ゝ白ゝ仏れゝ空ゝ月ゝ月ゝ
ゝいひ粉ゝゝ白ゝたん　ゝ海ゝ
ゝゝ月を天ゝ一白ゝゝ仏粉ゝゝ迷白

不芳

待　ゝのひの　隆ハ　隨　ゝゝ　芳　の　中　翁

除勤の月ゝゝゝ月ハ歌ゝ月ゝ月ゝ

[illegible]

友よふ　墻　社　物しきの　蕉　仙化

友采墻を此所にしく付る仲むつの体
物淋きこゝろ月雪白こゝ鉢しる雲
よくうけうらきあるとうしん月仮
みゆ夏をの　しるひら
雨さくていやしるうる鼠曇　コ斎

墻の所とうしるの体をこのへら

[illegible]

[illegible]

門　八　夏　午　孤　陳　の　寺　化石　岸白

鄙の体所八こ流るなるの門寄夏午
涸なこ寄うみうる体多午し曇中こ午
と附うるすへこ体先の冬雲ひるへ
理西雲午物うふ出先日六七鶏　芳童
寺月雲夏こ海を西軍うれる体民
屋寺中こ押さへく狼藉しうる紀西の

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

竹うゑをハ建かさ　よう　ほ　　杓水
南むく菖蒲の畑の垂きしを　　不卜
就と構を　ち　屋のつ結　し　　文鶴
餅化る為らの度を　合を　　根風
漿子　賞　うし　結のうゑ　を　　菊
庵のをを　のいを　人もゆつ　ぬ　　朱法
ゆくき男のいひすむ　月　　不卜
蓬の面殺七里をぬ　ぬ　　李白
作翁何他の　川つ　　杓水
多年米つ　まうれ　を　　黄角
梅ハさうし院　を閉　　多喜
二月の蓬葉人もすを　や　　コ富

姉　生れ　重　の新　　著童
胸　ぬ　載の　を識　を　　菊
ぬ　ひ　ぬ　　芽の菊さ　　根風
蓑の　を　の　　文鶴
木魚　山　う　　李白
因を　し　休　　コ富
萩さ　む　ま　つれ　ひ　　不卜
四　舟　と　兎　を　　多喜
う　う　の　ん　ハ　蛙　か　　朱法
之　徳　芽　肥　の　さ　ま　　仙化
ゆ　ハ　玄　の　を　つ　を　　李白
名　契　情　を　ま　れ　ぬ　ま　　文鶴

[illegible]ふ春のうつくし　芳室
[illegible]海の笠うつて　岸白
梅さき[illegible]ひ[illegible]　二角
樹[illegible]の[illegible]　映水
地と[illegible]花の沖さきうて　仙化
伊[illegible]の[illegible]る[illegible]　不卜
梯[illegible]きく　梅つくる秋　李白
作[illegible]のゆさ[illegible]れ世や[illegible]　梅水
屋[illegible]　文鰐
紅[illegible]牡丹十里[illegible]　多喜
[illegible]　映水
[illegible]　映角

のうの[illegible]　二角
[illegible]ハ[illegible]　仙化
[illegible]　芳室
[illegible]　梅水
[illegible]　映角
[illegible]　梅風
[illegible]　映水
[illegible]　不卜
[illegible]　岸白

[illegible]　吉東

南道一所[illegible]
久[illegible]　[illegible]

[illegible]ある友をさそひこす事　翁
かけ八寸程の葬掃箒　其角
すしとはきる一軒の酒　嵐雪
月うれて煙火赤海の上　翁
咋の虎子吹ものおと　本
生魂子給ものを明ける　重
宿仕ふ[illegible]美女[illegible]　角
提灯子大墻の[illegible]　東
出[illegible]子ふす　言の材木　翁
[illegible]八[illegible]の背戸　角
[illegible]子[illegible]　重
他人の[illegible]氏を[illegible]　翁

[illegible]付[illegible]　翁
[illegible]八[illegible]の犬の[illegible]　重
軍の加減[illegible]　角
[illegible]に心[illegible]　東
[illegible]　翁
面[illegible]　角
小姓[illegible]　重
丁寧[illegible]　翁
[illegible]　東
[illegible]　重
[illegible]　角
[illegible]　東

毛穂をしき立画のそよぎ　翁
ちらばる庭の白子十茅　角
ゆすぐ日の時雨さえの月　雪
きりぎりすいのちはかなの手けぶり　翁
豆たくましき筍の殺伐也　素
つりてもあれの後方の松樹　雪
四の緒をあるそろそろ家のそ　角
鼻つまむ昼よりそのの生看　素
ひとつまきけぬるのみきハ　翁
縄まれて架本吟の花もちぶ　角
おふ七葉のうけて出まき　雪

三月廿日

長吹き七日朝尺の物もとのれ　翁
憚て世社わらて細橋　清風
足袋未き妻手ぶ茂して　春白
米一升をさのう年の戸　貫良
先有を隙ハ家ちこ年　如口齋
枝尺ちうしき桐の葉を菊　芳角
蕾衣手ふいを出れかう義て　風
間かれ云角きりのうちう　白
既千を付ものの使ひの色しく　衣
一歩の為り鶏うけうち体　翁
松ゆすう奥尺ちいの実い降　角

生て　桜ゑ　れるてのうく　風
新かちしめ敵を　ゑ　良
とし　を餅　を　山　寺　富
ゑを　牡　桜や　さ　に　ゑ　白
虹の　は　め　ハ　を　い　ゑ　角
流　ゑ　ハ　源　影　を　さ　ま　ゑ　義
三　ゆく　麻　れ　ひ　川　矢　を　辰　富
いきしと　年　ま　ゑ　ゑ　新　ま　き　龍　ゑ
男　ゑ　し　れ　白　粉　を　ぬ　ま　風
膝　琴　る　明　の　風　絃　を　忘　れ　ま　る　角
ふ　ま　ま　ま　ま　し　牡　丹　蔵　つ　白
耳　ま　ま　妹　う　を　う　郎　石　義

清　を　ゑ　ゑ　み　源　う　ま　辰　を　し　て　辰　る　良
れ　焼　て　力　ま　う　ハ　清　く　う　風
系　ま　う　琴　し　ま　辰　れ　お　琴　角
横　琴　桜　牡　ゑ　ゑ　や　ま　し　ま　み　ま　く　ま　富
ゑ　の　角　秋　ハ　ま　を　ま　ま　に　ま　ま　ま　ま

車を下りて春の休らひ　白

和漢

彼風に吹かれる彩雲の翻るみすみ　翁

蕉葉蟬　避烟　素雲

合歓醒　馬上　〃

かさなる山の向ふの蓮の花　翁

月代見　金氣　雲

露繁添　玉滴　〃

弦地ゥ物　古寺の鐘の中　翁

幡を左右に分て　〃

望幕　驅倫亂　雲

古木枯て　砌る水の堀　翁

星の数首の数　〃

乳をのむ條子　柘の櫂　〃

舟鉤風　早浦　雲

鐘絶日　高川　〃

魚のうつる苔の泥　翁

食ハすけ　〃

託敷　三社本　雲

鶏使　五車塡　〃

花月丈　山閑　〃

蒲を枕つくもの　翁

蓼銀鮎　一寸　雲

箕面の滝　菊
[illegible]
風猿喉　畢　乾
[illegible]
霧　籬　顔　孰　典　雲
霰　浦　月　潜　雪　菊
[illegible]
山伏山　平地　雲
門番門　小天　菊
鵜鶴窺　水鉢　菊

[illegible]
[illegible]
臨谷伴　畦仙　雲　菊　雲

[illegible]　沾荷
[illegible]
[illegible]　菊
[illegible]　露沾
[illegible]　雲
[illegible]　菊
[illegible]　沾
[illegible]　雲

花とひらきやと酒造りし　菊沾
みるすゝきにかゝれる鶴の雪　菊籌
きりぎすの鳴の頃とぬこの子　菊
縮緬を樽の柱に巻うひて
みられし髪を直すかんさし　沾
鴨ゝ鳥ゝ形尺のつゝみ
行く樊火ゝ鳥巣ゝ　菊籌
椿の月ひらの色ゝ信やをて　沾
出法ゝ出ゝ裏の蓋うみ　籌
本忘の神ゝ碑や峰ゝ山ん　義
四十雀ゝ風ゝ雪ゝしゝ　嵐雪

手毬や女郎の乳ハ星月夜　甚角
笠紅梅を立てむ玉祝　今我
ものを菜屋のおゆゝゝ　菊
山ゝゝ尺ゝる　松風
ひゝゝ出ゝ雲ゝ　船棠
投きゝ子ゝ　横几
有明すゝゝ秋ゝゝ　菊
帆を八合ゝ　仙化
蝉郎の笠

吉沢や雄鹿ゝむゝの音　菊

[illegible]の[illegible]の[illegible]の

月清く白雨洗ふみすれ　蝶　沾蓮
言をつうふく鯉てくしける　女角
花咲て人しまるる　の尾　露菊
新板　鈴ゝ山　咲の　はし　沾菊
二　作法やたらの陵のまさえて　露沾
磨　ナ　うるゝ　鳴る　を　沾法
横の葉を糸文　葉を　ち　鶴　菊
ナ　ゆ　ゝ　蟲のさゝつき　露菊
物うけハ思ひやまゝ角られて　沾菊
琴を　ゆするゝ　形の　沾蓮
ゝをいゝ　胡蝶とかゝ　秋の　露菊
九　梅　枯ゝ　尾上ゝ　けき　露沾

風の　ゝ　ふ　籠　孩　の　ゝ　沾蓮
大口　を　ゝ　夜　の　を　ゝ　菊
ゝ　ゝ　ゝ　燈　の　ゝ　れ　を　ナ　ゝ　露沾
ひ　ゝ　ゝ　ま　れ　を　ひ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　蟲　沾菊
一　物　の　祝　念　の　恵　蟲　藤　ゝ　蛍　露菊
ゝ　を　動　の　ゝ　ゝ　ゝ　敷　の　ゝ　ゝ　ハ　露沾
頭　ゝ　け　ゝ　後　ゝ　ま　ゝ　ふ　男　つき　沾蓮
陽　陽　を　ゝ　ゝ　る　尾　物　子　の　ゝ　沾菊
猪　織　菊　の　月　ゝ　き　の　枯　さ　ま　ゝ　菊
枯　ゝ　ゝ　ま　ま　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

[illegible]　濁子
義燈の[illegible]　角　菊
貝ひろひしゆく磯なれさ　晨雪
醉てくハ人の肩をしらへつく　其角
多の知人はいてはもしらぬ紅葉の霜　菊
松松苔松蟬の峰　雪　子
池の鶴[illegible]　角
みゆと入帆の[illegible]　雪
奇の中を過るの[illegible]　子
蛛りかしら北の梅やさき　菊
北念てふ袋ぬきれ[illegible]　雪
雪を点きく窪の[illegible]　子

はのふはしと物[illegible]　菊
二筋[illegible]の[illegible]　雪
一生の生涯をとゝむ[illegible]　子
苗代ゆゝ雨[illegible]　雪
鶯の巣のいとりすもゝ　菊
秋百下[illegible]きの月　子

同

冬[illegible]人[illegible]市の物　濁子
陸[illegible]入　の　雪　其角
手の[illegible]ゆく後——　菊
火をたく舟の[illegible]　仙化

[illegible]

[illegible]

[illegible]

月入る電 秋の蕃すこく 子
てしの芋を荷ふ 蛙 来 菊
塚のゝ女房の秋むる秋の風 角
邦を軍ずとられゆく芒 宵
花のたくさつつる強くむく 化
すゝ餅をゆるす月白夫 示

十月十一日鉢谷会

旅人と乗合ふむ初時雨 菊
まゝ山茶もを宿くすく 由々
飯鉢の空とせみたのしきる 蕉角
粮を分るる山うけの朝 松風

かけ行くゝ芒生の秀出沙みゝ 文鰍
新一蕃墨月茶 仙化
中の秋風二一走帰るし 魚笑
鮒てゝ一迷る海 秋 釣水
祈堤や次第ひくき波のひゝ 全峰
影とゝ行灯灯火の茶 松 蕉雪
風飯子乙女走のあひたて 桃華
和月の芒と振る筑波 菊
鰍約袖つくそうる厚川 々
芋一面子 砧る 橋 杭 角
芒ゝ女里子 襟をかゝる 風
月茶 法ん 波の 筑人 鱸

[illegible]

[illegible]

[illegible]

信濃や寒居の友を交うん　水翁
笠に海苔もるうハもれ本芽の雨　沈々
谷海苔ねうハもれ本芽の雨　沈々
あつさうれしさうまの山うら　々

赤尾屋にて旅人の句を乞く　如行
旅人と乗尺をやきむ宝の重
さのつき立しに飾ひさうへ　翁
ゑ母の孫の本紙を荷ゑんて　桐葉
翁子あつらへ色の砂原　行
小法門子羽ひふむの法ふ　翁
樹の古枝を伐子物うへ　紫

ウ
裏参子信山子村の雨を経て　約翁
光あり　若しこの貴句　紫
物くうて貴句うつ物ひ
まうさうみ古子　なうへつ　行
樞氣子尺ふ　橋るる山の姿　翁
ふうしうう是　栄人の色　紫
橋化る家ふ　ひしおの風　行
之さ月おそく節句初うう　翁
移を入る初川いそく花の姿　紫
茅屋　侍の寺うう和ある　行
法即位子ふ白髪とえうむ　翁
植て岩壁の百本の竹　紫

芭蕉翁不快として止ぬ

[illegible]寺[illegible]式業言寿を飛鳥井雅章卿の
侍従子の加[illegible]を和さ
[illegible]ハまさ[illegible]の宴　翁
[illegible]ハ[illegible]海の月　業言
[illegible]ふ[illegible]て[illegible]物ひちて　知足
[illegible]の風　如風
酒[illegible]ハ[illegible]の[illegible]ひ　安信
[illegible]の[illegible]生いそ[illegible]し　自咲
僕ハ[illegible]生　重辰
[illegible]三反[illegible]の形[illegible]つ　信
[illegible]命の飯[illegible]を　咲
[illegible]

[illegible]いく[illegible]の末の　翁
[illegible]の[illegible]一[illegible]　足
[illegible]の[illegible]　定
[illegible]の[illegible]の[illegible]　翁
[illegible]の[illegible]秋ハ[illegible]　風
[illegible]の[illegible]　作
[illegible]の[illegible]　足
[illegible]の[illegible]　作
[illegible]二[illegible]　足
[illegible]の[illegible]　翁
[illegible]の[illegible]　咲

[illegible]

[illegible]

[illegible]

舟泉
執筆

洞碧
水
子
翁
雲
人
泉
洞
碧

雲
人
子
翁
碧
泉
水
洞
人
子
翁
泉

山ひとむしろ　神うの　酌　安信
きてうけさ　百敷　ふるさと　酒　人
猶うらぶれ　ふるひ　ふる　水
何ゆゑ　もみぢ　ふる　花の　陰　安
義の中うた　桂山　ふき

早晴の関を　ふるとも　菊
松　風　ふる　雨の　理　火　安信
築山の　ふる　れる　梅を　植うみて　自笑
あ　ふる　猫の　ま　ゆ　ひ　つ　知長
ふ　の　ま　ま　ゆ　ひ　つ　業言
ふ　の　ま　ま　ゆ　ひ　つ

家のこゝろを　ふる　雨
一里の　ふる　毎　ふる　川上　ふる　如風
雨　ふる　ふる　門　ふる　ふる　重辰
市　ふる　ふる　ふる　ふる　ふる　安信
生　ふる　ふる　ふる　ふる　ふる　長
雨　ふる　ふる　ふる　ふる　ふる　信
身　ふる　ふる　ふる　ふる　ふる　風
う　ふる　ふる　ふる　ふる　ふる　菊
ふ　ふる　ふる　ふる　ふる　ふる　笑
発　ふる　ふる　ふる　ふる　ふる　風
家　ふる　ふる　ふる　ふる　ふる　長
笑　ふる　ふる　ふる　ふる　ふる　信
屋　ふる　ふる　ふる　ふる　ふる　辰

山ちかうてみとしたいけしけし　足風

二月晦日　光明寺

海ゆかしうしうしう水

角ゆ〳〵角ゆ〳〵化粧いとう　菊

大川青のくとしひさく帳の内　元

海〳〵とぬ月ゆ〳〵桃の川ひ　風

霞ふくて酬和ふくい慰ん　位

無ふゆ〳〵一京の能知　足

式ゆ〳〵ゆ〳〵かゆ〳〵ゆ〳〵ゆ〳〵ゆ〳〵ゆ〳〵　風

陽炎　宋の出の川　口　屋

探ゆ〳〵順ゆ〳〵海ゆ〳〵ゆ〳〵ゆ〳〵すみ　菊

笠ゆ〳〵ゆ〳〵ゆ〳〵ゆ〳〵

はしかはかなさ蓑うの風止まず　紫
秋旭　帰る山のうけろひ　菊
秋ゝ花ゝ有明月の山家
節ゝ　ひとしきりのから　紫
朧　くるゝ人の袖をとゝる秋　い
こゝろ　鹿のくるき張り　菊
ゆわる雑ぬ　ぬるむ秋八ゝ　紫
砂ゝ　月　境　ゆる尾　菊
古畑ゝ　ひとゝ麦苗ゝ　紫
相撲ゝ　ゝ　菊
松明ゝ　食ひゆく秋の風　紫
雪ゝ　ゝ　菊

紙中　暮の雑ゝ　ゆゆ　菊
温泉　ゝ　ゝ人もすさめ　紫
咸陽の女　ゝ　月　ゝ　菊
雑　注　彩　ゝ　ゝ　ゝ
新雪ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゆゝ　ゝ　ゝ　ゝ
月　ゝ　一里の河原ゝ　紫
ゆゝ　ゝ　ゝ　ゝ　菊
初霞　いく　ゝ　ゝ　紫
物　ゝ　ゝ　ゝ　菊
解　ゝ　ゝ　ゝ　紫
湖　ゝ　岩　ゝ　ゝ　菊

[illegible]

菊

[illegible]

紫

秋山の[illegible]

菊

[illegible]

紫

[illegible]

菊

[illegible]

紫

[illegible]

菊

[illegible]

紫

[illegible]

如風

[illegible]

菊

[illegible]

安信

[illegible]

重辰

[illegible]

[illegible]

[illegible]

知足

[illegible]

業言

[illegible]

信

[illegible]

[illegible]

[illegible]

雲やたゝぬ藤原の春をこめて
植けし園の梅ぞ咲ける　有定
秋や昔三千年をへぬるかと
思ひしをけふ見る花の色
ちはとつる蓑をゆるせる花の風
疲しゝ手にはつかに残る
米すゝに苔の戸むる新うすみ　菊屋
山のゝ井ひとしほ冬の苞　信房
わこの道八岩を踏ひとり松　風
うきをやもとゝ小の橋のそひふし　吹足
くるみとゝ小の橋のそひふし
秋霧を楚のあなのさか　信房

いろ〳〵に有数の信は云ふて
春を待ふ例ふる岩ふみ　信房
枝ひく佛代の清めのうねひ山　信房
さゝらを削る伊勢は宮作　菊屋
貝のかゝをとゝ月の新清く　信房
新春をやしるふる義の松出　信房
匂ふとゝ弥千枝ふる菊苗　菊屋
母のいのちをたゝうふゝ家　信房
年時をはうゝきの新　吹足
おゝの花のまさ筆　信房
六永く雪の輝ふ蓬蕾　信房
乃の名称をたゝるゝ木のし　信房

笠相手人をゆるしたるの歌

舟手 焚火を入る 赤の紫 聽廣
五六丁布団干きて赤尺〻〻 如行
枯もの絵つ〻 蔵の中 四く 野水
ゆるまし神〻如月の海棠海 越人
筋しを 扇の 枝 若子
帷子 脇 羽折も秋めて 挑華
食よ 鶏くさ 四くさ 翁
弟子も 学八大うさ 雲
塩尺〻すく 藪の こい 芍 杉
ものしと 是仏の 法子 鶏 子

後ゆ〻 念仏 人
思ひ入戸を ゆるして 蚊 水
うきうきを 絵つる 月の 傘 杉
出き歌を 注 ゆみの 雲 人
人手 抱 さ 紅をゆう 水
笠の 賀 手 ふ 物 衣を 敬 雲
手き 物を 我 る 幕 串 翁
先 人 の 物 も 手 て 出 ち
に物 と い ま み ゆ ち
ニ ふ ら 保 ま 白 は 俳 紙 手 杉
放 蕉 咲 人 社 奥 さ よ 子
ち く と 一 扇 入 て 月 の 笑 ち 人

書もて南の窓に行つくられ紫苑の葉しと
手見やりしみの法け　父　翁
布袋徒行　秋光の秋の色
松高の　内　秋
ひかりとしてうすき雲を
巣戸打きて通ぬ　翁
法してうすきの高き雲
ゆうしう姿　秋光　水
雲の中紫苑咲て蟬ハ
鳴ゆふ星　秋月　人
旅衣尾張の国に十義の　翁

富士画うるとて文をかける
帳に至入る花相うし　水
新　和うて　秋光
　　人

十二月九日一井寄無り
旅の雨ゆうしの花ちる内秋
長き　翁
ちはくつまる蔦を
見しと名をかの行楚
秋海棠　仏華かの　一井
秋　秋の　載人
陸の上を体ひかり　昌碧
楚の　翁
陸に雨ハ消ちもし　火
起ちもとの白ひかりき　楚竹
東睦

みしれし紫の行ぬるひとの
袖もとゝ又ゝ行るをのきゝ
乳をのむるおとゝ香ゝ似ゝし
麻布を焼ひるに織るゝ
萱をとゝこゝ夜八和ゝるゝ
夕立の先ゝ行ゝ
るゝ行ゝ
小男鹿の翁矢を
流ゝ行ゝ
本ゝに悔ゝ
ゝ

菊
野人
鶯
子
竹
鶯
菊
人
子
碧

錢別

岸白

財布しに殘かゝ
犬猪も栗ゝ
松風ゝ
紅葉ハゝ
殘ひゝ
菊の
殘ゝ
殘ゝ

菊
溪石
コ齋
蕉角
ト千
嵐雪
白
菊
石

同

さらさらの砂をかきあつめて雪の根の形
一羽わうさぎ一もと花　松江
枯そのこいるし松のみどりさし　菊
回井のもとに通ひくる　曽良
月わたくわの家しる敷　依く
秋風上り門の半　蕪　泥芹
家の系孫を通ひ橋のき　水萍
雨ふりハスをしる寄のきを縁　風泉
旅枕女房のふけをく　久右衛
契情うけをかくす　嵐　若翠
　　執筆

下しの秋庵高り柳のすそをき
をうふぬ写むきし神の月ひんと芭蕉
庵を分ち　風澤

深川ハすみを咲神を祭分れ　菊
寺社をしけ下ゆの河しぬ　一品
初霜のはしめ社市の日和えく　琴義
約しくお月の初物相うみ下　虚洞
牛車乗おろ主ハそ安む

初の茶を毎ふ富て冷しき　菊
香きし　おうるみしの粕の箸　英角

いろしのあとをとゝろう月ぬる　嵐雪

樹をよゝろ千かゆれ初しまゝ　松江

秋をこゝろるのさ一敢　菊

月ゝんと沙ひるの手ゝ紅ゝめさ　曾良

ゝゝ鉄箱ゝ人を付ひ三河ゝ千

越ゝ今ゝ一ゝ紅ゝ侍良吉時ゝ人を

ゝ浪ゝまる洗をけゝひ手一ゝ

ゝゝ旅の寿をゝめゝ

燒食やゝゝ古のゝ手ゝゝ一ゝん　知足

砂ゝのゝ一ゝ泉ゝの紅　菊

ゝ水をぬゝ力ゝ果ゝ手ゝ　越人

ゝ川のゝ月ゝ一ゝの姿ゝ風　足

ゝゝゝゝ月ゝゝゝ月ゝゝ　菊

くゝゝをかゝゝ秋の月　人

宗無尾子旅ゝ

蓋栗や更ゝ松ゝゝゝ　越人

ゝゝゝゝゝ秋ゝゝの松　知足

海ゝゝ秋ゝ月ゝ見ゝ　菊

明戸ゝゝ直ゝ酒ゝゝ道　人

高ゝゝん対ゝ月ゝ　足

夢美の貢もと通ふ事も　菊

[illegible]出羽守氏雪定[illegible]

[illegible]和歌むらの雨　菊

水を[illegible]くゐ井の大僧　自笑

和つ[illegible]岸の三股蕨拾て　如見

宇無尾如見の[illegible]菊を[illegible]

いく[illegible]紫[illegible]和[illegible]綾[illegible]　蕨手

[illegible]　菊

[illegible]　如見

[illegible]　野水

市人[illegible]

酒の戸[illegible]

[illegible]　菊

[illegible]の[illegible]　拾物　抱月

[illegible]　杜國

[illegible]

[illegible]　如行

[illegible]　夕道

[illegible]　蕨手

[illegible]　野水

[illegible]　菊

[illegible]　[illegible]

麦蒔くやうの作業やそこ[illegible]

みそとさうに山茶咲し　越人

金の虫　雲のむれの寄るて　野人

いなづまは夜を見て稲の実をて

秋のくれ　雨る　鼠　左見

同寄の時　[illegible]　嵐風

三十餘年　[illegible]　野人

何は此の所のうは[illegible]　支考

かや　鶏せはしやとりて　故江

[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]　翁

[illegible]の[illegible]　[illegible]の為　越例

[illegible]は村家[illegible]を[illegible]　翁

角の[illegible]　[illegible]　去芳

貞享五戊辰年

何の木[illegible]　翁

[illegible]　[illegible]　[illegible]　蓋完

[illegible]海[illegible]の[illegible]　又玄

二葉のすゝけ浮世書きちらす
手の子哉を引つゝみ　平庵
紙を先ハ長き枝の折て火　鰐延
鉢ウ折て蒔のかゝる夕　清里
門ほとゝぎす鳴る回の中れ　夷
山法寺ゝ清水ながれ流れけり　菊
炭ゝ寒さ　たのむ出し　庵
女のみ古むほ俳諧の殘す　言
樽て射つゝ海苔一つ　菊
ゆゝしに酒ゝ多くて牡丹　延
陣の仮屋ゝ作の義ゝて　野人
白雪ゝの初花を折し　夷
　　里

ほ一めて之ゝる西れ紙鳶　庵
ゝ月を縛る樣織ゝ尺ゝ　言
笠ゝ走みつゝ指のくすん　菊
二祇仮ゝ信れ本ゝ法師の内　夷
西亭つゝるきゝの俳　人
志摩ゝ池の鴨やゝ折る口て　延
ゝ鉢ゝ追ゝ起一晩　言
たゝこ吸かゝ手の行のゝ　庵
俳のゝゝ書うゝ書て　里
ゝゝゝ樂の一ゝと駄ゝし　菊
鴨の王ゝ社潘ハさしゝ　夷
ゝ之ゝ等表ゝ鉢の隙　言

時雨降て限者也ちり　西
笑うけて秋毎の身を尺ぶるき　八
ゆとすきむ宮の国きえ　尾
新しき藻水とふけきつ　光
先初瓜を米て代あす　翁
寸竹を時ゆうしゆ　正永
ゆうこむ櫻て舟はるむ　玄
まく海の弓陰を引捲め　西
たんさく孫て祇園の垣　人

秋きぬのゆくともおん雨の花　翁

清て水川は汲て水はあるめる
酒て甲う秋さく棹て陸恋て
板屋（の中ゆ山ゆ
夕雲は月角て傘をて家
て雨瓜を付て泊く し
秋宮く米一升て屋敷く
膳は椒の花ちてきひき
次付く雨て中ぬけて米
夕て雲を うて新人
雨て とて山の寺て雨を懐て
寺て 乗て く 業平の宮
寺の井を鶴鉢の屋て作て

後宇度
乙孝
一有
杜園
應宇
葛森
翁
玉
森
玉
翁
宇
森

[illegible]ことはけしき義のいと来
いとつよくはせて書れば筆枝て　考
形年のまのれに神をもく　相
果ら聖聖のれ形をたくひて　翁
出業集代赤翁の白の筆てまて　字
汐八千を砂をくまを文字は浪の海
ね毎年かくるをあひて　翁
乞食しとくに橋の本の中
聖しを蕉あるのの有をたつ　翁
貝殻のけしきをもを作を他
八ウをあるまれ色清けし　翁

如行

叩端
閑水
翁

桐葉
東籬
工山
桂楫
孰葉
行
端

対をこそ秋風ひとりの一の
うすしをを秋さみくれの雲
豊蔕のうれうれ蕉を掃をを
人のあるのうハとの数し
有ウ年を去歩の加減を至
樹木の一のけを今に形を故
鶏ウ鳴ハ律をかをて新さる
屋ウをを発ハいけを零ハ
簾竹の虎をたくれ答後
をくくと火くちをハあのさえ
鶏をを四をとをれハ泊るあをさ

[illegible]の橋のかけつくろひ
[illegible]を千中[illegible]
かくきは又の[illegible]
陽明の用ハ[illegible]
一里まてゐ[illegible]
[illegible]をまさきし[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]れ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]義すみ[illegible]
[illegible]と[illegible]の[illegible]
非人と[illegible]
[illegible]の[illegible]一[illegible]級

水　菊　紫　菊　山　楫　塲　行　水

[illegible]す[illegible]
[illegible]梅[illegible]
[illegible]
又[illegible]
何[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]十二[illegible]
不[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]一寸の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

郭公一とせかくなきのく　揮

菊

蓋る七条の費白のさかり　知足
麦穂ゆみよるくらひの赤　相葉
二ツ一つ美しる島のうれて　叩端
うくさの稲をもれ一番花　業言
伐られて有かりの浦傳ひ　自峻
うれとはうの秋の月　如風
行ひくの蕎の耳きき紀　雅
念力岩をたくふきて宝　重辰
その多の松の一昌きめ一宜

長者の妻の蕎を拔くも　菊
多路行を荷ふこい新のうく蕎　足
岸の子かうふる八百の渚　紫
棄遺の柳新の遠ゆる　端
るを拔ゆ一親の身さうう　辰
うれの秋すゆるゆ新の梅　足
猫ゆ八猫を方そんて　風
うの新の子蕎の旨ゆう女花うけて　紫
妹めるすうを来を一八て　立
二てうう種舟つけうをうちやう　端
亀さこのつき紙せ和ふさゆみ　菊
天をさく物の子廻一てやゆひく　作

五日は能の会面は世阿弥
菓子ふるまはれて本能をしてのち住吉
長谷のお面を名取りひ　　吹　　見

同六月十九日

芳文

菖蒲の舟に屋の色まーまうし　　菊芳
月はもしろくゆるかなるの子　　菊
さしぬみやくもみえ火とまち待て　　越人
鄙のつゆ　舟の大きさ　　惟然
苅萱をつけ人の通る道　　炊也
扇子小袖の屋ハさひしーー　　義梅
去路ふく烟ハおもしろくと

楫ーしの咀のゆのゆ先ふり
ウ
ちるみ見もやうす軒ばしし
歌（ちきる　堂人の　寅
ぬのうて　蓑ぬく
すの　舟のせはさよ　　已百
沈ケ月の元光ふ　　梅餅
ゆひのめる　ちひさ　　寸法蟹
蓬生の　様を　きうけて　　路歩
蓬　ぬけの　紅　父の　ものき　　拾京
き　ぬ　来の　ぬれて　ぬし　　用名
つ　ける　舟　主の　角　　東巡
秋の　楫　杭　つくる　斧屑　　菊
人
文
芳

然玉椿餅葉百菊呂京歩迎文

然人菊玉百呂京巡笠文

[illegible]

去来の句に於ふ俗千の出也見　歩橋

[illegible]ひおもふ[illegible]のうくし　樹人

[illegible]の[illegible]人[illegible]を[illegible]けて　菊

伊陽[illegible]ゆく[illegible]身の[illegible]けむ　樹

本松[illegible]花ちる[illegible]の角[illegible]　芳

情[illegible]を[illegible]む[illegible]れの[illegible]　餅

七月十三日写海帆宅

細[illegible]も[illegible]日の一[illegible]　菊

[illegible]ゆく[illegible]にとも[illegible]月　重辰

行庭[illegible]ほの[illegible]く[illegible]を酌く　知足

[illegible]る叢[illegible]竹[illegible]

蛤の[illegible]みく[illegible]る砂[illegible]　如風

笠[illegible]ゆけ[illegible]松[illegible]わく[illegible]　安信

白雨の[illegible]つ[illegible]みゆく[illegible]の[illegible]　自吹

田[illegible]千[illegible]新し[illegible]の羽[illegible]の[illegible]　風

お[illegible]乳[illegible]ひ[illegible]の[illegible]ひ[illegible]　足

[illegible]ひ[illegible]を[illegible]る[illegible]を[illegible]の[illegible]　風

[illegible]蛍[illegible]ひ[illegible]ひ[illegible]ひ[illegible]　吹

[illegible]蓬の一[illegible]も[illegible]る[illegible]　菊

[illegible]す[illegible]瓦[illegible]の鬼[illegible]新[illegible]し　信

[illegible]能[illegible]恩[illegible]る入[illegible]ひ[illegible]情　辰

[illegible]川[illegible]角[illegible]を[illegible]　菊

[illegible]　風

作　是

牛歩

作　是

吹　是

菊

作　是

吹

原　菊　是

作　是

作　菊

郷　是

作

吹

松竹紫野無彩

菊

義の中よりうまれつきたる秋の面おかしき彩をもつてみる者有あり唱歌に山石一井ひいらぎと人の中をハひいらぎよ越人

秋もちらちらと散ぬるかな胡及

ウ 木葉ちる枝の末も秋の月 氣津

はらはらと雨の音聞く旅寝哉 菊

芭蕉翁の句に秋の暮夫婦別れて子一人 虹

秋の月やうの物とくらく

ものかなしさ 芋

死ぬ者もあり夫もあり人

石蕗も咲くよりの月 及

義をとゝのへ秋風渡る

次ものしを時雨をのこハ行ものそ 菊

きつゝき 秋はそ面の雲 外

面白ものすハしく 芋

外 結ぶくらし 虹

二 出ぬ月まよりつゝ木の外 芋

木ゝ月ものをしてゝ 及

を道ものこハ新酒 陳

切義 外

きりしの香 人

人一代の 菊

拾一世ハ夢のうゝ 虹

きくとなれと色をかへぬ人
なるこの子指さしかくす及
戸をあけるとの秋の寿
早咲の梅を手にとらん芳
嫁をぬ　姫の頭うてる隊
きのひさすこのきくすは垣の松人
清きやまをうる松のもとも虫
ゆやまを秋を。秋をて虹
何を清ゆくはきたやう菊
菊子ふる祝の芋物を明隊
すもれさうわるきのみ芋虹

元禄元　九月廿九

叩渭

いろいろの色をひろふる白ひろふ　桐葉
秋のひるきとうたるの秋　菊
去九子ふるの夜の新月を　東籠
色のそやきを人のとえも　工山
菊宵へ秋の月後を立ちを　閑水
物ウ　秋のうるやう　孤華
秋はうち何を走くうて作ひをん　渭
芋子ふと高うて作やを村　紫
秋とう新子新　菊
秋　刈んとは安さよ　蔵
精ゆうを金村うる和く

[illegible]に菊きる山
[illegible]の頃[illegible]けりなし
硯をさしてる角のふしき
[illegible]しハ行をくひの草のもと
[illegible]目の覚ぬ頃のらしを
[illegible]を[illegible]接樓をお花生
[illegible]の[illegible]
青しとうとうぬ石の苔[illegible]
[illegible]て久霧る世橋の上
[illegible]を強いるゆめぬ蓮池
[illegible]の[illegible]
追物る木幡の[illegible]を[illegible]生

山　水　紫　菊
山　水　紫　菊

[illegible]おろしつ
いそく[illegible]結を[illegible]し橋る宋
女[illegible]を[illegible]と菊る　[illegible]
[illegible]の[illegible]
宋[illegible]の[illegible]
[illegible]川を[illegible]
[illegible]を[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

秋風　越人

泥の[illegible]

月何日海を千家相　菊

[illegible]

[illegible]

苔翠　友五

[illegible]

[illegible]

[illegible]

初夏の頃 深草 頃の板 苔翠
時雨と名をいふ竹の秀葉 菊友五
まりに俤名のいろは翠ひて
南うち寄る雨もりなきし 若菊
ちもきをのそく山の名うり 肥芹
折ふしく雄の かけのさびしく 伯之
女房もも雄に為ることもも 人
鶯と物このうすの毛の皮 五
落柿舎さえて 活うつきと 菊
まさ生ぬ雪の底ゆて 恨とまま 翠
さし殺しうち 出華の音 菊
秋風やうを打ぬの名より 人

谷の底 はかあしき月 依
ひ乃ちおうを結て一句詠うう 菊
仲子 初尺うう 敷蜜の 塚 芹
名人の活ゆ子の茅の色 菊
破さ生 ちうう 青う 生 風 菊

涼川の秋

乃ちうも 郭うよかうの名 越人
酒 さつしうふ 氏 ちうの月 菊
義 ちうの月 と 窮屋 ちめてつん
理 ちちう 秋の 文 言 人
新 名の 大 さ 五 石 ちうし

風ふき雨降る夕暮に帰る市人　菊
何のすさび歩かるれば利の欲
醫のおもひもとめる深れば
いとうしと思ふ色の変をむさ　人
ひとくせはやく寺の絵とる
世界の古本元著の名を侍へ　菊
見給へ其の世ぬ命のけ
きぬしやはまつかぞくはやか　人
風ひとの人ふ者れ美し
まくつの本屋の佛絵とまを家　菊
物稼くまれ舟絵ものの　人
月とぼけ合の宇根をかとして　菊

ゆく春嘶る人の乳紙　人
徳乳戸の新歩行る書の末
尺毒ハさしき長の枕刻　菊
匣ゆく服紗ものつむ十寸鏡　人
物さの方の新ものの
人さいさ情さの句ひ
紙撥ゆ義る巻れ隅　人
対ゆ嵐の対ゆ最中に　菊
垣結のさけ寄ハ屋敷
あやうくに炭ゆ姉ゆの　人
対の寄ハ絵絵ゆむて　菊
ゆく月のゆ対の書て消さる　人

[illegible] 菊
秋の風を荷をぬるるの花引き 人
きいしくまつの文字写す末の露 菊
いのちをしく尾庭の木葉哉 人
花もさるるの渡りめいるかな 菊
花の陰義経あらしの山もとの 人
風のみしき 解脱 菊

大通院追善

[illegible] 菊
[illegible] 桔梗の枝の長
[illegible] 恒の池 菊
義経のみの仏まち面白 嘉聖

風のききつにすす物の寄 友又
内洞のくぼのもつ濡る月 素雪
海苔をこのけるまの白菊 海通
包めともやうに冷るもひく 曽良
[illegible] 雪
[illegible] 又
[illegible] 嬰
いのちを央うつ高の浦不 通
陳を起す [illegible] 菊
義の月風[illegible] 良
[illegible] 菊
拾[illegible]ぬ金の[illegible]秋の末て 雪

世理をこゝろみをの年ゆの物　良
時の俗界の岩屋つくるゆめ　通
はかつ小船をはんぬ　谷川　正
二ヶ所と者の住所と朱さはしし　翠
良の住くろもしくやむひゝる　通
葉をもむしくゝ雲むる笠の内　菊
雅八木市村　村うゝも　正
苦生　佛の膝を枕しさ　良
雲とおもひて覚のゆゝ苔　菊
振袖をいのもむ葉の一株　通
無しゝめす　雲の影　翠
雲海の世界の俗の戸をゆく　菊

月の雲　代をこゝ弼ゆく　正
注刻をうつまゝ鳥のこゝれ　菊
東良平も形ゆ伝ゆゝふん　良
酒をゝ分て八人手指ゝ　翠
巷をも重ゆ　庭の砂ゝ　通
ゝみゆくる浮世の別ゆらし　正
故手ゝもとくゝ笠撫　菊
清き紙子貴を弼ゝもの　良
ゝ雲くゝゆゝ香の一時　菊

雲月花八休ゝの作ゝ委ゝ　浪通

花色をとゝのへん梅は早咲
ち渡せる小面に酒の食手て　宗牧
都なれぬ旅之の出　友五
特ひとゝ紅の面影を残る月　菊
火を焚豆をさゝ一枝く秋　盛水
てゝくと樵初出の初霜の　貫良
初日もりひきて珠数の弦　菊
生絹付凡ゆくき人のゝ和す　水
親子ゝゝつゝ不さゝゝ　良
去のさわさ寄もゝきぬ酒物　通
夢のはゝゝもゝ初ゝ菊　彼
不二消初ひゝたゝゝを松　五
　　菊

母の佛　我仏子の
産柄子白法の桶を五垂
濯ゝをすゝす砂川のも　水
和もすゝ法子和ハ夜ゝてゝ　五
砂孔扇の骨を法ゝうん　菊
二孔形をすゝ蜂子のけ一きし　通
後ゝゝひゝく小ゝゝ小ゝ　五
きんとゝ娘の新の美一き　菊
いや一お姿子猿ゝ文塚　水
各ゝゝ法ひゝ学孫孫抱て　通
ゝゝゝゝ白髪おゝゝも　五
荷頃子ひゝゝ多ゝゝ精の稲　水
　　良

嵐子　由もせぬ　秋山の　菊
秋山の　山伏はいの　菊
こもれる人と　ふくこけし　祢の木　五
ぬしこもれ　伏をこの　陰のいそうき　通
心をけ　子　入るかこれ　東　菊
文字ふ　子　て八雪の　後の上　良
まあこ　くじ　いこ　ゆ　ゆ　幾手　通
伏を　海女　袋　誠　こ　五
るこ　ま　こ　こ　海　ひ　く　家　水
花子　舞　二　男　こ　こ　ん　菊
爰子　わ　こ　こ　張　治　の　伏　菊

きも　毎子　梁　こ　む　伏　ひ　う　面　袋水
こ　子　こ　子　海　の　塔　桃　後通
きり　し　の　通　ひ　ま　こ　桃　菊
はし　めて　子　の　ひ　子　む　く　色　友五
ひけ　こ　こ　の　梅　爰　和　月　和　曽良
郵　字　爰　ふ　き　ひ　け　き　紀　宗波
一里　て　子　財　こ　ひ　て　嵐竹
人　こ　て　尺　む　牧　和　の　釜　雨洞
かし　ひ　こ　和　と　和　の　仲　枕　夕菊
こ　ふ　く　松　子　毎　よ　伏　緑條
有　こ　こ　て　は　け　こ　こ　三　毋　の　通

カ　ちすてゝ　一　信　菊
放れて　和うむ　牛の　み深く　之
住うえて　降る　雨の　稲葉　水
面影の　像を　あまり　波の　月　湖
住ゝ　住ゝ　むかひの　秋の　夢　良
長生を　祈る　本の　花　植えて　通
夢の　あひて　母　百　ぐ　ん　徐
二　酷　愛　花　愛　を　わく　る　歌の　里　竹
地　火　禁　拝　て　を　か　て　し　之
拝の　夢　社　寄　と　ゆ　ん　蓋　寄　し　良
丸　輪　八　義　て　く　き　石　の　塔　之
一　か　叫　れ　し　て　く　ほ　と　吹　家　良

むくろ　を　ゆ　み　月　竹
秋　寄　く　ゆ　て　拾　ふ　法　の　か　菊
藤　て　氣　を　き　ほ　て　ま　け　き　徐
と　く　如　歌　て　結　き　し　入　る　故　帳　の　内　菊
松　う　小　為　に　く　ま　け　き　ん　通
て　ま　て　に　刺　て　る　ゆ　を　ゆ　と　花　良
生　木　を　地　て　は　て　る　み　の　な　水
カ　て　し　八　稲　を　か　る　ま　り　竹
悔　四　る　人　ゐ　て　若　一　き　菊
蓑　室　と　表　て　ま　ま　ん　通　徐
時　て　八　猿　社　小　猿　を　引　之
優　婆　塞　と　も　な　ま　く　後

[illegible]の明好手法もむ心吹　菊

[illegible]ねめ二尺の七五三を手の[illegible]　菊

篠竹うち[illegible]雄掃の[illegible]　紙水

鋼うち[illegible]の小口[illegible]て　[illegible]良

村の[illegible]取て[illegible]おくり孤形　[illegible]竹

孤[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]　宗波

紫を[illegible]　松[illegible]方[illegible]横[illegible]　[illegible]通

[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]　友五

[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]　[illegible]芹

三味線を[illegible]と[illegible]　菊

[illegible]て物[illegible]　[illegible]の[illegible]むし[illegible]　菊

[illegible]の情を[illegible]士[illegible]　通

[illegible]の[illegible]に[illegible]　良

[illegible]の[illegible]の[illegible]　水

[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]　波

[illegible]の[illegible]の[illegible]　菊

[illegible]の[illegible]の[illegible]　通

[illegible]の[illegible]の[illegible]　五

[illegible]の[illegible]の[illegible]　菊

[illegible]の[illegible]の[illegible]　竹

[illegible]の[illegible]の[illegible]　菊

[illegible]の[illegible]の[illegible]　波

あくにかかるちひさき
男子紅姉うすくれをきるひて　菊　通
涙火桶千　鼻孔をわま　菊
老ぬ花小計のうすの皆けるる　五
まるうく絵はをつうきを　水
姉の家と茶碗二ハをを重ね　通
めゆうみすうさく　擬さを先し　良
甲笑作濃自をゆうを濁酒　波
家をくされてみるる和雑　五

糸を宝よ梅ようれくの蕨　雑良

茶の湯千鳥ひとを　菊

さんしすすおすひをを　横うれ　菊
書のををやくををうれり　掠九

宝をや茶色ますを一すみ　閑情
二人しくいさ大る　瓜　艾角
載物の麻のをれ縁快ひく　菊

[illegible] 已百
[illegible] 菊

[illegible] 義秀
[illegible] 義稜
[illegible] 菊

林鐘十七日　寸木
[illegible] 菊
[illegible] 義秀

[illegible] 載人
[illegible] 義稜
[illegible] 秋芽

[illegible] 牧盛
[illegible] 菊

賀新宮
[illegible] 菊
[illegible] 知足
[illegible] 安信

風を樂しむ行舟の曙　翁
秋堤の家ゝ漁火地の雲　芝
和泉　初しぐれ物淋し　作

ひとりゝと粉雪かけしやをとこ　翁
蕓蕪ゆくゝ新月有り

本ゝ丸宮さま雪ひよ稿繁山　義稜
よ紅葉はく〳〵雲の凡　雲　翁
姉の為る里の堤根を鍋をさして　義平

秋の野ゆかぬ花なぶし　越人
雲の物思ふ人の新し外し　明室
みふとゝ舟の入うる春　舟泉